

リアホナ



ヒンクレー夫妻が
歩んできた道,
32ページ

若い女性のテーマを
信じる, 42ページ

世の光, 「フレンド」6ページ

リアホナ



表紙
写真/クレーグ・ダイヤモンド



「フレンド」表紙
写真/ジョン・ルーク、
写真はイメージです。



「赤い毛糸のマフラー」
18ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ—靈感を伝える言葉
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 10 時 十二使徒定員会 ダリン・H・オークス
- 18 赤い毛糸のマフラー フリップシム・ザティクヤン・ライト
- 25 家庭訪問メッセージ—神に会う備え
- 26 イエスのたとえ—ふつつかな僕 七十人 W・ロルフ・カー
- 32 ヒンクレー夫妻が歩んできた道
- 38 末日聖徒の声
「歌ってあげなさい」 ルアナ・リッシュ
ただのセールスチャンスとしか思っていませんでした ヨランダ・ザヤス
教会に導かれ ヤダムスレン・ムンクツヤ
- 48 『リアホナ』2003年10月号の活用法

青少年

- 6 とどまる力 七十人 H・ロス・ワークマン
- 22 質疑応答—どうしたらメルキゼデク神権を受けるために最善の備えができるでしょうか
- 30 あの本 スイット・サイサム-アン
- 42 わたしたちは天父の娘であり 天父はわたしたちを愛しておられます
中央若い女性会長 スーザン・W・タナー
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 預言者の声—ちびっ子機関車君
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 4 しんでんカード
- 6 分かち合いの時間—キリストの光
ビッキー・F・マツモリ
- 8 新約聖書ものがたり—
ろうの中の、パウロとシラス
／パウロ、せいいいにしたがる
歌—世界中と手をつなぐ
ジャニス・カップ・ペリー
- 14 預言者に会いたい
サラ・V・オールズ

「靈感を伝える言葉」
2ページ参照



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンスバスター

顧問:モンティ・J・ブラフ, J・ケント・ジョリー, W・ロルフ・カー, スティーブン・A・ウエスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケープ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オーズ, スーザン・パレット, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリーン・ポーター・ガント, シャナ・ガスナビ, ジェニファー・L・グリーンウッド, リサ・アン・ジャクソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ジョナサン・H・スティーンソン, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリー, ジャネット・トーマス, ボール・バンデンバーク, ジュリー・ワウデル, キンバリー・ウェッブ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン, スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンブラット, フェイ・P・アンドラス, C・キンボール・ボット, ハワード・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, プレント・クリスティンソン, ケリー・リン・C・ヘリン, キャスリーン・ハワード, デニース・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ビクストン, マーク・W・ロビソン, ブラッド・ティアー, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
Eメール:cur-iahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, クラライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアノ語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2003 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷所:日本

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines October 2003.
Japanese. 23990 300

For Readers in the United States and Canada:
October 2003 no. 10 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



伝道の記事がためになりました

わたしは12歳で、教会の会員になってから1年と少したちます。『リアホナ』に心から感謝したいと思います。どこを読んでも日々の生活に役立ち、福音についてさらに教えてくれるので好きです。特に2001年10月号の記事「あなたの召し」は、宣教師になるために必要な段階が一つ一つ述べてあり、気に入りました。『リアホナ』と「フレンド」に感謝します。どちらもとても忠実な福音の友です。

チリ・ブントアレナスステーク,

プエルトナタレス支部

ルイス・エドゥアルド・ハロ・ブストス

証を分かち合う喜び

『リアホナ』は大きな喜びと楽しみを与えてくれます。救い主は「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、……わたしの証人となるであろう」と約束されました(使徒1:8)。『リアホナ』は証がいかにして奇跡を起こすか、いかにして一歩ずつイエス・キリストの証人になることができるかを教えてくれます。主を知ることがわたしにとって大きな喜びであり、主を知るよう人を助けることはさらに大きな喜びです。主のもとに導いた人々が天国で喜ぶ様子を見ると、わたしたちはすばらしい気持ちになるでしょう(教義と聖約18:16参照)。

ブルガリア・プロブディフ地方部,

スリベン支部

ディミトゥル・ニコロフ

霊的な宝石

『リアホナ』は霊的な宝石です。このすばらしい機関誌は、若いときからわたしの人生を祝福してきました。預言者、聖見者、啓示者の言葉、青少年向けの価値ある記事、そして優しく鼓舞してくれる子供向けの記事は、25年以上の間わたしの人生を高めてくれました。この高価な真珠を家の中に置き、その豊かさを理解できるようにしてくれた両親に感謝します。今わたしは自分の子供に、『リアホナ』を読んで、その神聖な真実を心に満たすよう勧めています。

チリ・タルカワノ・コロンステーク,

クルステルスルワード

ダニエル・マルセロ・カニョレス

読者の便りに感謝

わたしは主がこの末日において、御自身の民をいかに祝福されているかに驚いています。1987年に教会の会員となったときから『リアホナ』を購読しています。「読者からの便り」を読むと、とてもうれしくなります。世界中から投稿するすばらしい人々の思いや証はわたしを強めてくれます。主の教会の会員であるわたしは何と祝福されていることでしょうか。この機関誌は世界中にいる主の民の心に触れるよう、神の啓示を受けていると確信しています。

フィリピン・バギオステーク,

ケソンヒルワード

ビクトリノ・F・デラ・クルーズ・ジュニア



靈感を伝える 言葉

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

伝道のプロセス

「伝道のプロセスは4段階あります。(1) 求道者を見つける。(2) 求道者を教える。(3) ふさわしい改宗者にバプテスマを施す。(4) 新会員をフェローシップする。……これから5年間、10年間、そして20年間、あなたがバプテスマに導いた人が、男女を問わず、末日聖徒イエス・キリスト教会の活発で忠実で、献身的で、ふさわしい会員であることが大切です。」(1998年9月20日、テキサス州ヒューストン、宣教師集会)

福音を分かち合う

「宣教師に代わって……聖徒の皆さんにお願いしたいと思います。知人の中で教会に興味がある人を宣教師に紹介するために、できることをすべて行ってください。そのようにすれば、皆さんは幸せになります。皆さんの努力で教会に来るようになる人はすべて、皆さんの人生に幸福をもたらしてくれます。わたしはこのことを皆さん一人一人に約束します。」(1996年5月21日、韓国釜山、ファイヤサイド)

結果は決して予告できません

「自分のすることがどんな結果を生むかは決して予告できません。性別や年齢を問わず、皆さんが今日訪問する人、言葉を交わす人、モルモン書を渡すかもしれない人、皆さんの申し出を断るかもしれない人、その人が後に関心を持ってこの教会に入るかもしれませ

ん。……人の心に触れる主の方法は不思議です。皆さんは自分のすることがどんな結果を生むかを決して告げることができません。」(2002年3月22日、マサチューセッツ州ボストン、宣教師集会)

改心

「兄弟姉妹、〔新たにバプテスマを受けた会員が〕確実に改心するように、すなわちこの偉大な業について心の中に確信を抱くようにすることが非常に重要です。それは頭で理解するだけのものではありません。それは心の問題であり、聖なる御霊が心に触れることです。そしてついに、この業は真実であることを知ようになります。また、ジョセフ・スミスはまことに神の預言者であること、神は生きておられ、イエス・キリストも生きておられて、御二方が少年ジョセフ・スミスに御姿を現されたこと、モルモン書は真実であること、神権はそのすべての賜物ならびに祝福とともにこの地上にあることを、彼らは知るのでした。これは幾ら強調してもしすぎることはありません。」(1996年11月8日、コロンビア、ボゴタ、宣教師集会)

教会には人々に期待していることがあります

「この教会には、人々に期待していることがあります。教会には高い標準があります。力強い教義があります。教会は人々に大いなる奉仕を期待しています。怠けてただ従っていただくであってはなりません。わたしたち



**「この教会は、
会員が多いにもか
かわらず、
個人に
関心を払います。
会員数が600万、
あるいは1,000万、
1,200万、5,000万
であろうと、
個人が大切である
という事実を
決して見失っては
なりません。」**

は行動を起こすよう人々に期待しており、人々はそれに応じます。奉仕に参加する機会を歓迎します。そして、奉仕するときに、様々な事柄を立派に行う能力、理解力が増し、資格が備わるのです。」(2001年11月6日、ORF〔オーストリア〕テレビ局とのインタビュー)

歓迎されていると感じる

「この教会に入る人が全員歓迎されるように、くつろいだ気持ちになれるように、教会に友人がいるように、そして教会の中で何か行うことができるようにして、その人が信仰と忠実さを増すことができるように、わたしたちは配慮すべきです。」(2001年3月16日、アルバ、集会)

励ましの言葉

「わたしたちには、バプテスマを受けて教会に入る人々に対して一つの責務があります。無関心であってはなりません。独り放っておいてはなりません。新会員はこの教会の方法と文化に慣れるために助けを必要としています。その助けをすることは、わたしたちにとってすばらしい祝福であり、絶好の機会です。……温かい笑顔、親しい握手、励ましの言葉、これらは驚くべき結果を生みます。」(1999年2月28日、ユタ州エンサイン／ローズパーク、地区大会)

親しく迎えること

「彼ら〔宣教師〕は、自分たちがバプテスマに導いた人々を養い、助ける責務を、すなわち友となり、手紙を書き、励ます責務を今もなお負っています。しかし、兄弟たち、皆さんの責任はそれ以上です。監督として、ステーク会長

として、長老定員会会長として、皆さんは新会員を親しく迎え、慰めとくつろぎ、温かさ、幸せを感じさせなければなりません。それが、ぜひとも必要です。」(1998年1月10日、ユタ州ウッズクロス、地区大会)

常に養う

「すべての改宗者に教会内の友人が必要です。友人とはつまり身近にいてくれる人、質問に答えてくれる人、気を配り教会に来るよう促してくれる人です。改宗者には責任が必要です。なすべき事柄が必要です。責任がなければ成長しません。責任がなければなりません。わたしたちは改宗者として教会に入る人々の世話をしなければなりません。福音の中で常に養う必要があるのです。」(1998年1月10日、ユタ州ウッズクロス、地区大会)

人々の霊性を築く

「今日、わたしが監督あるいはステーク会長であったら、何をしようか。人々の霊性を築くことに主眼を置くよう心がけると思います。主イエス・キリスト、永遠の父なる神、預言者ジョセフ・スミスを信じる信仰、またこの業の回復とそれが意味するもの、それに関するすべての事柄を信じる信仰を人の心に築くために、知っている限りの方法で熱心に働くでしょう。聖文を読むように、モルモン書を読み、新約聖書を読むように促すでしょう。静かに、よく考え、深く思い巡らしながら読むように、能力の限りを尽くして勤めることでしょう。預言者ジョセフ・スミスの教えを読むように勤めるでしょう。」(1996年9月14日、オレゴン州ユージン、地区大会)

「伝道のプロセスは4段階あります。」

- (1) 求道者を見つける。
- (2) 求道者を教える。
- (3) ふさわしい改宗者にバプテスマを施す。
- (4) 新会員をフェロシップする。」



個人を思い起こす

「個人に気を配らなければなりません。キリストはいつも個人について話をされました。病人を個人的に癒されました。たとえの中で個人について話をされました。この教会は、会員が多いにもかかわらず、個人に関心を払います。会員数が600万、あるいは1,000万、1,200万、5,000万であろうと、個人が大切であるという事実を決して見失ってはなりません。」(2000年2月25日、Deseret Newsとのインタビュー)

わたしには証^{あかし}があります

「わたしには、この業が真実であるという、真実の、熱烈な、いきいきとした証^{あかし}があります。永遠の父なる神^{あがな}が生きておられ、イエスはキリスト、わたしの救い主、贖い主であられるということを、わたしは知っています。この教会の頭^{かしら}として立っておられるのはキリストです。わたしがひとえに望んでいるのは、主がこの業を進めようとしておられるようにこの業を前進させることです。」(2002年1月20日、ユタ州ワシントン、ステーク大会)

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその例です。

1. 木かプラスチックの小さな積み木を6つないし8つ用意しておく。家族の人々に、これを使って何かを造ってもらおう。次いで、個人の霊性を築くために使える「積み木」は何か尋ねる。このメッセージの中からリンクレー大管長の提案を幾つか紙に書いて積み木にはる。それぞれの提案はイエス・キリストを信じる信仰を築くのどのように役立つだろうか。

2. 最初の4つの話を読んで、家族とあなたの地区にいる宣教師はどのように力を合わせて働けるか話し合う。

3. 「歓迎されていると感じる」とそれに続く3つの話を読む。家族の人々に、新会員を助けた経験について話してもらおう。「個人を思い起こす」を読んで、救い主の愛^{あかし}について証を述べる。

4



とどまる力

正しいことだと思い、すべてを捨てて伝道に出ましたが、うまくいかないことばかりでした。でも、決してあきらめたくはありません。伝道地にとどまろうと思いました。



七十人
H・ロス・ワークマン

大学に通い、アルバイトにも恵まれ、婚約中で、数か月後には結婚する予定でした。毎日楽しいことばかりで、輝かしい未来が待ち受けているかのようでした。

不意を突かれました。ある日曜日の朝、ステーク会長がこう話しかけてきたのです。「主はあなたが伝道に出ようお望みです。」わたしは、これは神からの召しだと強く感じました。そこで、その靈感を行動に移し、伝道に出ようとすぐに決意しました。

召された任地は南部諸州伝道部です。準備を始めましたが、大変でした。仕事を辞め、大学を休学し、結婚を2年後に延期し、愛する人々に別れを告げるのです。自分にとって大切な人、大切なものをすべて後に残して行くような気がしました。

ジョージア州アトランタまで、同期の宣教師とともに何時間も列車で旅をしました。二人の宣教師の出迎えを受け、伝道部長のところまで車で連れて行かれました。短いあいさつが済むと、バスで早速アラバマ州モントゴメリーへ向かうようにと伝道部長から告げられまし

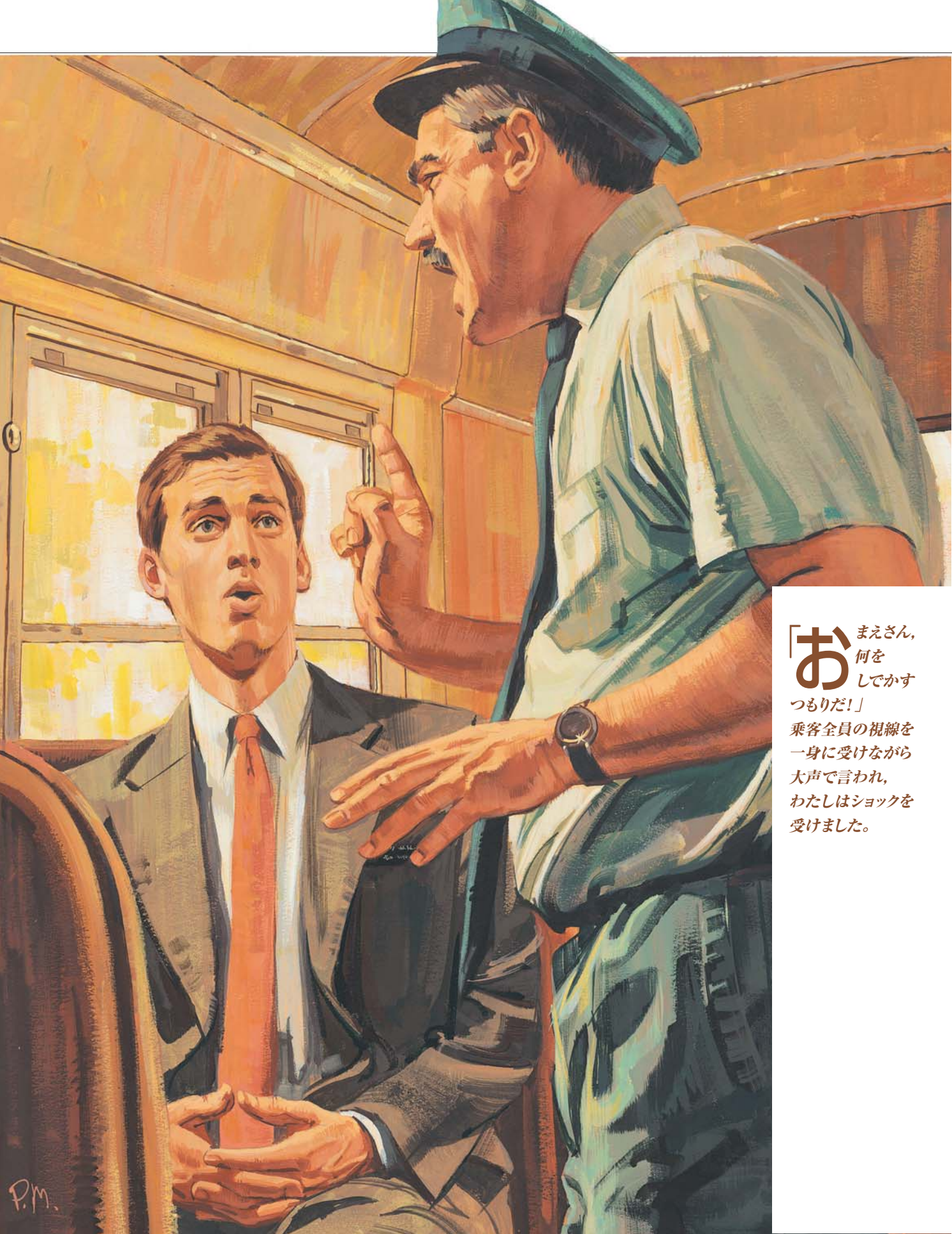
た。そこで任地について指示を受けるということでした。それから出迎えに来たあの二人の長老に連れられてバス発着所まで行き、宣教師アパートの住所を書いた紙切れを渡されました。モントゴメリーの宣教師が何をすればよいか教えてくれるそうです。

ためらいがちに発着所に入り、切符を買い、バスに乗り込みました。外はもう暗くなってきています。深い孤独を感じ始めました。窓際に空席を見つけて座り、努めて平静を保とうとしましたが、気はめいるばかりでした。どこへ行くのか、どんな人と生活を共にするのか、あるいは何をするのか分からなかったからです。

バスの運転手は、運転席に座るとバックミラー越しにわたしをにらみつけました。そして立ち上がり、わたしの席まで歩いて来ると大声で言いました。「おまえさん、何をしでかすつもりだ！」乗客全員の視線を一身に受けながら大声で言われ、わたしはショックを受けました。どうして怒られるのかまったく見当がつかせません。ほとんど消え入りそうな声で答えました。「バスに乗っているだけです。」

今度はどなりつけられました。「ここで何をやらかす魂胆だ！」わたしは気づきませんが、バスの床には白い線が引かれていました。運転手は線を指さし、その白線より前に

「**主**はあなたが伝道に出ようお望みです。」
わたしは、これは神からの召しだと強く感じました。



「おまえさん、何を
してかす
つもりだ！」
乗客全員の視線を
一身に受けながら
大声で言われ、
わたしはショックを
受けました。



「伝道のほんとうの成功は、グラフで表せるものではありません。あなたの心の中に、そして、あなたによって生活が永遠に変わった人々の心の中に、刻み込まれるものなのです。頻繁に証を伝えてください。宣教師が力と良い影響力をいちばん発揮できるのは、純粹で飾りけのない証を述べる時です。教えを受ける人々が改宗する第一の段階は、あなたの証なのです。勇気をもって人々を招き、彼らが福音の原則と儀式に従うことを通して、自分の生活を変え、キリストのみもとへ行けるようにしてください。」

七十人会長会、
デニス・B・
ノイエンシュバンター長老
「宣教師になった息子へ」
『聖徒の道』1992年1月号、
50

座らなければバスから外へ放り出すと命令口調で言いました。わたしはおびえてすぐに席を替わりました。かなり後になって知ったのですが、当時は黒人席と白人席が白い線で分けられていたのです。合衆国南部では、白人と黒人の隔離主義を巡る衝突があちこちで起こっていました。このバスの運転手は、わたしが抗議運動でも始めようとしているのではないかと思ったのです。

何時間もバスに揺られて身を縮め、恐れや寂しさ、そして屈辱感を払いのけようとしていました。モントゴメリーに到着するころになっても、手の震えでスーツケースをなかなか持ち上げられないほどでした。バスは夜遅く到着しました。発着所にはほとんど人影はなく、出迎えもありません。唯一の情報といえば、アトランタで宣教師からもらった住所だけです。その住所をどうやって見つけるかも分かりませんでした。

車の中で寝ているタクシーの運転手を起こし、紙に書いた住所まで連れて行ってもらえないかと尋ねました。運転手はいらだっていました。提示されたタクシー料金はかなりの額に思えましたが、必ず払うと約束しました。と

ころが、100メートルと行かない所で声がしました。「着いたぞ！」運転手はタクシー代を取り、わたしとわたしのスーツケースを小さな白い家の前に降ろして去って行きました。

家の明かりは消えていました。玄関までスーツケースを運び、ドアをノックしましたが、だれも出て来ません。今度はもっと強くノックしました。するとしばらくしてドアが開き、眠たげな目をした宣教師が現れました。

「どなたですか」と尋ねられました。

自分が何者でなぜ来たのかを告げると、そんな人物が来ることは知らされていないと言って、中に入れてくれません。わたしは、申し訳ないがただ指示に従っているだけだと告げました。

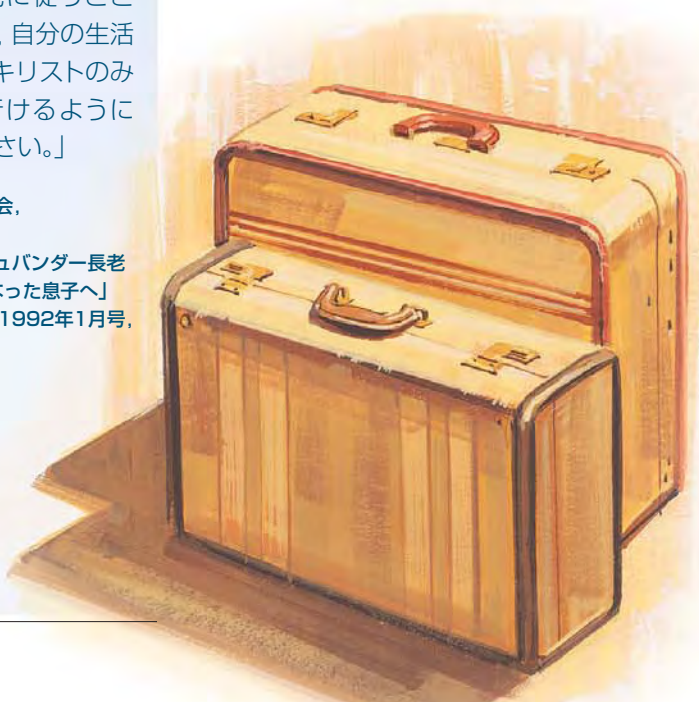
わたしを玄関に立たせたまま、「君に提供できる部屋がない」と彼は言いました。

「長老、わたしにどうしろと言うのですか。」わたしは涙声で言いました。「わたしはここに送られてきたのです。ほかに行く当てはありません。」

やっとのことで中へ入れてもらうことができましたが、台所の床しか寝るスペースはないと言われました。それからその宣教師は自分の寝室に消えて行きました。そのときほど孤独感を味わい、自分を不必要な人間だと感じ、落胆したことはありません。

汚れた床の上にスーツケースを降ろし、明かりを消しました。落胆のあまり眠れなかったので、ドアにもたれてガラス越しに外を見詰めました。ほんの数分前にいたあのバス発着所が見えました。そこに戻って故郷へ帰る切符を買うのは簡単なことです。お金はまだ十分に残っていました。喜び、希望、そして夢がすべて故郷にはあります。愛してくれる人々もいます。以前の仕事に戻り、復学し、家族と再会し、結婚することもできます。何度も同じことを考えました。「故郷へ帰ろう。ここには関心を持ってくれる人がいない。必要としてくれる人もいない。」

そのような中で、自問しました。「そもそ



も何の目的でここへやって来たのだろう。」心に浮かんだのはステーク会長の言葉でした。「主はあなたが伝道に出ようお望みです。」ステーク会長がその言葉を口にしたとき、強い靈感を受けました。その気持ちがほんとうに強かったからこそ、結婚を延期し、仕事を辞め、大学を休学してまで伝道に出たのです。伝道に出ることを主が望んでおられると知ったからです。

しかし、伝道地に来てみると、思い描いていた様子とはまったく異なっていました。かつては確信を持っていたのに、今、天からの確信を最も必要としているときに、その強く感じた確信ははまるで遠い昔の思い出のようです。

専任宣教師としての着任は、予想に反して苦難に満ちていました。それでもわたしは、自分が主の用向きを持つ者であるということを知っていました。宣教師として働くことは主の御心だと、以前ははっきり知っていたのです。宣教師アパートの暗い窓辺に立ったときに心底からの確証はありませんでしたが、だからといって、自分の召しの神聖さに関して得たあの知識がなくなることはありませんでした。

わたしはきわめて大切な選択を迫られていたのです。それは自分の望みと主の望みのいずれを選ぶかという選択です。わたしの記憶では、それほど明確に何かを選ぶことを意識したのはそのときが初めてでした。

わたしは自分に語りかけました。「決して、決して自分の受けた召しを放棄するようなことはしない。何が起ころうと、この伝道地にとどまる。」その言葉を口にすると、伝道地に到着してから初めて、心の中に平安を感じました。

それから長い年月がたった今、その経験の間中ずっと主は導いてくださったことが分かります。喜んで従う気持ちを行動で示して初めて、主はわたしたちに確信をもたらす平安をお与えになるということを学びました。あのとき、正しい選択ができたことをわたしはこれからも感謝し続けるでしょう。あの選択がわたしの人生を永遠に変えたのですから。■



汚れた床の上に
スーツケース
を降ろし、
明かりを消しました。
落胆のあまり
眠れなかったので、
ドアにもたれて
ガラス越しに
外を見詰めました。
わたしは
きわめて大切な選択を
迫られていたのです。

時

人生のあらゆる重大な決定を下すとき、最も大切なのは正しいことを行うことです。2番目は、1番目に劣らず重要で、正しいことを正しいときに行うことです。



十二使徒定員会
ダリン・H・オークス

何年も前のことですが、大学の学長就任式で、時がいかに大切であるかを示す話を聴きました。ある学長の任期が終わり、新学長が仕事に就こうとしていました。退職を前にしたこの賢明な学長は、激励の気持ちを表そうと、若い後任者に3枚の封をした封筒を渡して言いました。「就任中、何か危機が起こるまでこれを開けてはいけませんよ。どうしてもなくなったら、最初の封筒を開けてみなさい。少しは役に立つ忠告があるでしょう。」

新学長が危機に直面したのは、それから1年後でした。最初の封筒を開けると、紙が1枚あり、こう書かれていました。「前任者のせいにしなさい。」学長は忠告に従い、危機を乗り切りました。

その2年後、学長は指導力を問われるような重大な問題に再び直面しました。2番目の封筒を開いて読みました。「役員を再編成しなさい。」学長はそのとおり実行し、人事が一新されて非難していた人たちの攻撃はやみ、彼の指導力にも新しい活力が生まれたのです。

さらに長い年月が流れ、今やベテランとなった学長に3度目の大きな危機が訪れました。今回も問題の解決策が書かれているはず、と期待を込めて封筒を開けると、やはり1枚の紙が入っていました。しかし、そこに書かれていたのは次のような言葉でした。「封筒を3枚用意しなさい。」新しい指導者と交代する時期が来ていたのです。

「タイミングこそすべて」とよく言いますが、もちろんこれは誇張です。しかし、時は肝心です。伝道の書には次のように書かれています。

「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。」

生るるに時があり、死ぬるに時があり、植えるに時があり、植えたものを抜くに時があり、……

泣くに時があり、笑うに時があり、悲しむに時があり、踊るに時があり、

……抱くに時があり、抱くことをやめるに時があり、

……黙るに時があり、語るに時があ[る。]」（伝道3：1-2, 4-5, 7）

人生のあらゆる重大な決定を下すときに、最も大切なのは正しいことを行うことです。2番目は、1番目に劣らず重要で、正しいこと

主イエス・キリストを信じる信仰は、わたしたちを人生のあらゆる出来事に備えさせてくれます。このような信仰があれば、人生の様々な機会に対処する準備ができます。そして、やって来る好機を生かし、何かを失って失望しても挫折せず進んでいくことができるのです。

を正しいときに行うことです。正しいことでも、間違ったときにしてしまうと、思いどおりにいかず、無駄に終わってしまうことがあります。正しい選択をしたにもかかわらず、タイミングを間違えたために、自分の選択は正しかったのだろうかと困惑することさえあります。

主の時

時に関して最初にお伝えしたいのは、主は御自身の時刻表を持っておられるということです。主は、この神権時代の初期の長老たちに教えられました。「わたしの言葉は確かであり、果たされないことはない。」そしてこう続けられたのです。「しかし、すべてのことは時節にかなまって起こる。」(教義と聖約64:31-32)

福音の第一の原則は、主イエス・キリストを信じる信仰です。信仰とは信頼を意味します。神の御心と、神が物事をお進めになる方法を信頼し、神の時刻表を信頼することです。自分の時刻表を神に押しつけようとすべきではありません。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老は次のように言いました。

「大切なのは、神の時を信頼できるほど十分に神を信頼することです。神がわたしたちの幸福を願っておられるとほんとうに信じられるなら、主が最善と判断なさった計画が実現するようにすべきではないでしょう

か。これは主の再臨や、ほかのあらゆることについても同じです。神の全体的な計画や目的を信じるだけでなく、わたしたち一人一人のために時を定めておられることを信じなければなりません。」¹

実際、主の御心と主の時に対する完全な信頼なしには、主をほんとうに信じることはできません。

主の教会で奉仕の業に携わるとき、いつというのはだれが、何を、どこで、どのようにと同じように重要であることを忘れないでください。

時の大切さを明確に表す例として、地上における主の務めと、その後十二使徒に授けられた指示を見てみましょう。

主は地上におられたとき、十二使徒に、異邦人には福音を伝えず「むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところに」くように指示されました(マタイ10:6。マタイ10:5;15:22-26も参照)。そしてこの指示は、適切なときに、偉大な啓示によって、使徒ペテロにまったく逆の形で与えられました。そこで初めて、主が命じられたまさにそのときに、福音が異邦人にもたらされるようになったのです(使徒10-11章参照)。

この例が示すように、主は御自分の時を管理なさるために、絶えず啓示を与えておられます。この啓示による導きが必要なのです。例えば、わたしたちあるいは子孫の多くは、新エルサレムの建設に関する預言の成就に間違いなく携わることになるでしょう(教義と聖約84:2-4参照)。しかし、その最もふさわしい時を御存じなのは主であり、わたしたちではありません。主が時は今であると言われるまで、この偉大な事業に向けて土地をならしたり基礎を築いたりすることは認められませんし、そうした祝福にあずかることもできません。ほかの多くのことと同様、主は御自分の定められたときに、御自分の方法で、新エルサレムの建設を進めていかれるのです。

それまでわたしたちは、主が指示された方法で準備を進めます。主の時が来たらすぐに応じられるよう備えておくのです。そうすれば主は、

次の段階に進む時を告げてくださいます。今は自分に課せられた仕事と、今日求められていることに集中するだけです。このことに関して、主が次のような確信を与えておられるのを忘れてはいけません。「わたしは、時が来ればわたしの業を速やかに行う。」(教義と聖約88:73)

継続して与えられている啓示を受け入れない人は、物事を行うのに、早すぎたり遅すぎたり、あるいは、長くやりすぎたりするために、難しい事態に陥ることが時々あります。多妻結婚はその良い例です。

主の時の重要性は、主が定められた食物に関する律法でも明らかです。主は昔のイスラエルに、食べ物に関する一



**神殿数を増やすことは、常に
目標にしてきました。しかし、このように
早急で劇的な増加を教会と会員に対して
正当に求めることのできた人は
だれもいませんでした。
主の預言者が第一の優先事項として
これを指示するまで待たなければ
ならなかったのです。**



左—「プリシル・レシフ」神殿の写真／エス・フィルムズ。右—「それゆえに、あなたたちは行って、すべての国に教えよ」ハリ・アンダーソン画

つの指示をお与えになりました。それから長い年月を経て、「終わりの時に」存在する「悪ともくろみ」に対抗するために（教義と聖約89：4参照）、現代の状況に合わせて知恵の言葉が与えられました。これには、わたしたちに必要な祝福が約束されています。

主の時は、人生の重大な出来事にも当てはまります。教義と聖約のすばらしい聖句では、ある特定の霊的経験は「神自身の時に、神自身の方法で、神自身の思いに従って起こる」と宣言しています（教義と聖約88：68）。この原則は、啓示²や、誕生、結婚、死など、人生の重大な出来事のほとんどに当てはまります。新しい土地に引っ越すことでさえそうなのです。

正しい方向に進んでいるだけでは十分ではありません。時も正しくなければなりませんのです。時が間違っている場合は行動を調節し、主の僕^{しもべ}によって明らかにされている主の時刻

表に合わせる必要があります。

数年前、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、儀式が行われている教会の神殿数を、わずか2、3年で約50から100に倍増するという、大規模な神殿建設計画を発表しました。神殿数を増やすことは、常に目標となってきました。しかし、このように早急で劇的な増加を教会と会員に対して正当に求めることのできた人はだれもいませんでした。主の預言者が第一の優先事項としてこれを指示するまで待たなければならなかったのです。主の預言者だけが、儀式が行われる神殿数をほんの2、3年で倍に増やすよう教会に指示できたのです。

わたしは、2001年10月の総大会で別な例を挙げてお話ししました。福音のメッセージに興味を持つよう人々に働きかけるうえで、主の時に従うことがどれほど大切であるかということです。³福音を宣べ伝えることは主の業であって、わたしたちの業ではありません。

時の大切さを
明確に表す例
として、
地上における主の務め
と、その後十二使徒に
授けられた指示を見て
みましょう。

宣教師は
計画を立て、
働き、力の
かぎりあらゆることを
実行することができます。
しかし、
結果が望みどおりに
なるかどうかは、
周りの人の
意志と行動も
影響するのです。

したがって、伝道はわたしたちの時ではなく、主の時に行われるべきです。現在世界には、主の再臨の前に福音を聞かなければならない国があります。それは分かっていますが、強制することはできません。主の時を待たなければならないのです。正しい時を主は告げてくださいます。扉を開け、壁を取り去ってください。主の助けと導きを祈り求めてください。そうすれば、主の手に使われる者となり、準備のできている国々や人々、つまり、今主がわたしたちを使って助けようとしておられる人々に福音を伝えることができます。主はすべての子供を愛しておられ、あらゆる子供に、主の完全な真理を知り、豊かな祝福を得てほしいと願っておられます。主は、グループや個人の準備がいつ整うか御存じです。そして福音を伝えるために、主の時刻表に留意するようわたしたちに望んでおられます。

第三者の選択の自由

主の時以外にも、人生の重要な目標の達成に影響を与えるものがあります。個人的な業績の幾つかは、第三者の選択の自由にも左右されるのです。これは大学生の年齢にある若い人たちにとって、特に大切な二つの事柄に顕著に表れます。宣教師のときに経験するバプテスマと、結婚です。

2001年の夏、オクス姉妹とわたしは、ブラジルのマナウスを訪れ、アマゾン川沿いのその大都市で、100人ほどの宣教師に向けて話をしました。このようなときにはいつもメモを用意しているのですが、そのときは話をしようと立ち上がった途端、御霊の促しを受けました。メモをわきにやり、時の重要性について、すなわちこれまで述べてきた聖句や原則について話す必要があると感じたのです。

わたしは宣教師たちに、最も重要な計画の中には、第三者の選択の自由や行動がなくて



左—写真/スモット・ウエルティ。右—写真/ウエルデン・C・アンダーセン。写真はイメージです。

は達成できないものがあると話しました。5人の意志と行動が伴わなければ、今月中に5人のバプテスマを達成することはできないのです。宣教師は計画を立て、働き、力のかぎりあらゆることを実行することができます。しかし、結果が望みどおりになるかどうかは、周りの人の意志と行動も影響するのです。

宣教師の目標は、宣教師本人の選択の自由と行動力に基づいて立てるべきであって、第三者の意志や行動力を基にすべきではありません。しかし、今日は宣教師に話した目標について詳しく述べる時ではありませんので、代わりに、時の原則が人生の別な場面ではどのように働くのか、例を挙げてお話ししましょう。

人生への適用

自分の力ではどうにもできないことがあるため、毎日の生活で望んでいることをすべて計画し、達成することはできません。人生で起きる重大なことの多くは、前もって計画していたわけでもなく、また、必ずしも歓迎できるわけではありません。最も義になかった望みでさえかなわないことがあります。またかなったとしても、計画とは異なる方法または異なるときに実現するのです。

例えば、望めばすぐ結婚できるとは言い切れません。自分の考えにかなったときに結婚することは祝福かもしれませんが、そうではないこともあります。妻のクリステンが良い例です。彼女が結婚したのは伝道を終え、大学を卒業して何年もたってからでした。

結婚の時期というのは、前もって計画することがほとんど不可能な、人生の中でも特に重要な出来事のいちばん良い例かもしれません。地上の生活における大切な事柄の中には、第三者の選択の自由や、主の御心と時に左右されるものがあります。同じように、結婚も必ずこうなると予測したり、計画したりすることはできません。わたしたちは義になかった望みが実現するように努力し、祈ることができますし、また、そうすべきです。しかしそれでも、希望する結婚の時期を大幅に過ぎてても多くの人が独身のままでいるでしょう。



**結婚の時期というのは、
前もって計画することがほとんど不可能な、
人生の中でも特に重要な出来事の
いちばん良い例かもしれません。
第三者の選択の自由や
主の御心と時に左右されるのです。**

では主の時を待っている間、何をすべきでしょうか。主イエス・キリストを信じる信仰は、わたしたちを人生のあらゆる出来事に備えさせてくれます。このような信仰があれば、人生の様々な機会に対処する準備ができます。そして、やって来る好機を生かし、何かを失って失望しても挫折せず進んでいくことができるのです。この信仰を働かせようとするとき、自分の力の及ばない事柄に遭遇した場合の優先順位と基準をしっかりと定め、第三者の選択の自由や主の時が原因で何が起こったとしても、その優先順位と基準を忠実に守り通すことが必要です。これを実行することで、人生に一貫性が生まれ、指針と平安が得られます。自分の影響力が届かないどんな状況であっても、決意と基準を保つことができます。

独身成人は、決意し、奉仕することで、正しい時と正しい相手を待つ間の苦しい時期に、強く忠実であることができます。決意と奉仕は、周りの人にも靈感を与え、強めることができます。賢い人は次のことを決意します。「わたしは、人生において主を最優先にし、主の戒めを守ります。」この決意を実行するか否かは、一人一人にかかっています。第三者がどのような決心をしても、この決意を守り通すことができます。この決意は、人生の最も重要な事柄に対する主の時がいつであっても、わたしたちをしっかり支えてくれます。

卒業までには結婚しようとか、最初の就職では最低どれくらいの収入を得ようなどと計画することと、これから自分が何をすべきかを固く決意することの違いが分かるでしょうか。

神を信じるなら、また、主の戒めを守り、主を第一にするという原則を固く守るなら、たとえ非常に重大なことであっても、一つ一つを計画する必要はありません。計画し、期待し、祈っていた事柄が、望みどおりの時期に実現しないこともあるでしょう。しかし、たとえそれが非常に重要なことであっても、拒絶されたと感じたり、落胆したりすることはありません。

生活の中で、主を最優先にすることを決心してください。



人 生を
永遠の原則に
しっかりと
結びつけ、
状況や人の行動が
どのようであっても、
原則に従って
行動してください。
そうすれば、
永遠の結果を確信して
主の時を待つことが
できるのです。

主の戒めを守り、主の僕しもべから求められていることを行ってください。そうすれば、永遠の命へと導かれるでしょう。監督に召されようと、扶助協会の会長に召されようと、結婚していようと、独身であろうと、たとえ明日死ぬことになると、それはあまり問題ではありません。将来何が起こるかは分かりません。基本的で個人的なことに最善を尽くしてください。そして主と、主の時を信頼してください。

人生には、予期せぬ曲がり角が幾つかあります。わたし自身の経験を例にお話ししましょう。

子供のころは宣教師になるつもりでいました。高校を卒業したのは1950年の6月です。その1週間後に、何マイルも離れた地で北朝鮮軍が北緯38度線を越え、アメリカは戦争に突入しました。わたしは当時17歳でしたが、ユタ州兵に登録していたため、戦地動員への準備命令を受けたのです。同世代の多くの若

者が望み、計画してきた専任宣教師になるという目標は、突如として実現できなくなったのです。

もう一つ例をお話ししましょう。ブリガム・ヤング大学の学長を9年務めて、わたしは解任になりました。それから2、3か月後に、ユタ州知事から任期10年の州最高裁判所に任命を受けました。48歳のときです。妻のジューンとわたしは、その後の人生について計画を立てようと思いました。二人とも機会に恵まれなかった専任宣教師になりたかったのです。わたしたちの計画はこうでした。州最高裁判所に20年務める。69歳を前に1期10年の2期目が終了するので、そこで最高裁判所を引退する。それから伝道の申請を出し、夫婦で伝道する。

2年前に69歳の誕生日を迎えたとき、この大切な計画が鮮明によみがえってきました。計画どおりに人生が進んでいたなら、妻のジューンとともに伝道の申請書を提出していた

はずでした。

この計画を立てた4年後、十二使徒定員会に召されました。夢にも思っていなかった出来事でした。主がわたしたちの考えとは異なる計画、異なる時を持っておられることを知って、わたしは最高裁判所の判事を退職しました。しかし、これで重大な出来事が終わったわけではありません。66歳のとき、妻のジューンが癌で亡くなりました。2年後、現在そばにいる永遠の伴侶のクリステン・マクメインと結婚したのです。

わたしの人生は、計画とはまったく違ったものになりました。職業が変わり、個人としての生活も変わりました。しかし、主に対する決意、すなわち主を第一にし、主が望まれることは何でも行えるように備えるという決意は、永遠にかかわる重大な事柄の変更に際しても、わたしを支えてくれたのです。

主への信仰と信頼は、人生に何が起ころうとも、受け入れ、継続する力を与えてくれます。長年連れ添った妻の回復を願う祈りの答えが、なぜ「いいえ」なのかわたしは理解できませんでした。けれども主は、それが御心であるという証と、受け入れる力を下さいました。妻の死の2年後、すばらしい女性と出会いました。彼女は今、わたしの永遠の妻です。そして、これもまた主の御心であったことを知っています。

では、話を元のテーマに戻します。人生のあらゆる出来事を計画できるとは思わないでください。それがどれほど重大なことであっても同じです。外からの影響が避けられない事柄に関して、主の計画と第三者の選択の自由を受け入れられるよう備えてください。計画はもちろんします。ただし、自分の決意に従って調整するのです。そうすれば、何が起ころうとも人生を全うすることができます。人生を永遠の原則にしっかりと結びつけ、状況や人の行動がどのようであっても、原則に従って行動してください。そうすれば、永遠の結果を確信して主の時を待つことができます。

時に関する最も大切な原則は、物事を永遠の見地から見ることです。この世の生活は永遠のほんの一部でしかありません。しかし、この世での行いが、永遠の行く末を形作ります。人は自らの行動と望みの結果として人格を築き上

げ、その人格は、自らが交わした聖約と、正しい権能によって施された儀式を通して確かなものとなります。アミュレクが教えたように、「現世は人が神にお会いする用意をする時期」なのです（アルマ34：32）。この事実は永遠の見地、すなわち永遠の時を基準にして物事を見るうえで助けてくれるはずで

一人一人が主の言葉に注意深く耳を傾けて、死すべき世にあってどのように行動すべきか知ることができるように祈っています。また、基準を定めて、決意することができるように祈っています。そのようにすれば、天の御父の時と調和し、波長を合わせることができるのです。■



**生活の中で、主を最優先にすることを
決心してください。主の戒めを守り、
主の僕から求められていることを
行ってください。そうすれば、
永遠の命へと導かれるでしょう。**

注

1. *Even As I Am* (1982年), 93
2. ダリン・H・オクス「御霊によって教え、学ぶ」『リアホナ』1999年5月号, 21参照
3. 「福音を分かち合う」『リアホナ』2002年1月号, 8-9参照

2002年1月29日、ブリガム・ヤング大学で行われたディポーショナルの説教から

話し合しましょう

1. 教会への改宗、新しい町への引っ越し、結婚などの出来事が実際より何年か早く、あるいは、遅く起こっていたとしたら、人生がどのように変わっていたか家族と話し合しましょう。「主の時」の項を交代で読み、主の時刻表に従って行動する用意ができていて、どのような祝福を得てきたか話してください。

2. 家族の一人に、何か物を拾うか紙に何かを書くように言います。次に、その人が言われたことをするのを妨げます。目標を達成しようとするときに、選択の自由と第三者の行動が果たす役割について話し合ってください。「第三者の選択の自由」と「人生への適用」を読んでください。「永遠の見地」から物事を見たために義にかなった決断ができた人の経験を紹介しましょう。

赤い毛糸の マフラー

神などいないと教えられて育ちましたが、
震災と一組の宣教師によって
神を見いだしました。

フリプシム・ザティクヤン・ライト

アルメニアがまだソビエト連邦に属していたころにわたしは生まれました。両親はわたしと二人のきょうだいに、正直で善良、また道徳的に清く生活することを教え、できるかぎり立派な教育を受けさせようと努めました。しかし、幼稚園で教わったことの一つは、宗教とは人が現実から目を背けるために作ったものだという考え方でした。そして、12歳になるまで、神が存在することをまったく知りませんでした。

神よ、御名があがめられますように

12歳のとき、非常に大きな地震が故郷の90パーセントを破壊し、5万人以上が亡くなりました。そのときわたしは学校にいました。地響きがどんどん大きくなり、周りのものすべてが揺れ始めたのです。建物から避難する人の波に巻き込まれ、ひどい混乱の中で、ふと「二度と家族に会えないかもしれない」という思いが頭をよぎりました。ちょうどそのとき、階段の右側の広い廊下に、母が編んでくれた赤い毛糸のマフラーがかかっているのが目に留まりました。わたしは突き動かされるように人込みを抜け出し、マフラーを取りに戻りました。次の瞬間、3度目の揺れが来たのです。最後の大きな揺れでした。そして、友達をみんな乗せたまま階段が崩れ落ちました。われに返ると、学校全体が大きな瓦礫の山となっていました。けれども、わたしと赤い毛糸のマフラーを囲む狭い範囲だけは崩れずに残っていたのです。



家族は5人も無事でした。父は7時間探し
た末、母と生後8か月の妹、7歳の弟、そしてわ
たしが道路の真ん中に座り込んでいるのを見つけました。そのとき父は、たった一言こう言いました。「神よ、御名があがめられますように。」わたしは家を失いましたが、生まれて初めて神の御名を耳にしました。

懐かしい我が家の思い

地震から11年が過ぎました。わたしはアルメニアの首都イェレバンの医科大学を卒業したばかりで、眼科の研究生として母校に残り勉強を続けていました。そして、ボランティア活動の最中に二人の末日聖徒の宣教師と出会い、親しくなりました。宣教師は我が家でほかの人と同じように手厚く歓迎されましたが、神について話し始めるやいなや、家中の空気が張り詰めました。両親はわたしに「宗教を教える」宣教師は歓迎できないと言いました。わたしとしては宗教に興味はありませんでしたが、宣教師を拒まなかったのは、その目に何か違うものを感じていたからでした。宣教師の目は、どこかとても清く純粋で高尚でした。その目の輝きがどこから来るかを知りたかったのです。

両親の反対を受けてからは、宣教師と会うことを避けていました。それでも結局、教会堂で会う約束をしました。忙しくて話を聞く時間がないことを告げるためです。約束よりも1時間早く着いたわたしは、いすがたくさん並んだ部屋に入りました。15人くらいの人が集まっていました。



じゃまをしないよう静かに座っていると、不思議な、しかし信じられないほど懐かしい気持ちに駆られ、驚きました。まだ5歳のとき、走って家に帰り、母に抱きつき、その日にしたことを何でも話せたあのこと。母が自分を愛していて、いつでもそばにいてくれ、何も恐れることはないと確信できた子供のころのような心地になりました。何年も霊的にさまよった後、やっと自分の家に戻って来たような気がしました。

その夜、生まれて初めてひざまずき、神に祈りをささげました。もし天の御父がいられるのなら、祈りにこたえていただきたかったのです。そして宣教師が教えることは真実なのか、どうしてこのような不思議な思いに駆られるのかを教えていただきたいと思いました。その後起きたことは、なかなか言葉では言い表せません。このときほど天の御父の存在をはっきりと感じたことはありませんでした。御父がわたしを愛してくださっていることが分かりました。御父はわたしを御存じで、ずっとそばにいてくださったのです。その晩、眠りに就きながら、天の家に戻る道を見つけたことを心の底から確信しました。

わ たしは
突き動かされるように
人込みを抜け出し、
マフラーを取りに
戻りました。
次の瞬間、3度目の揺れ
が来たのです。
最後の大きな
揺れでした。
そして、友達をみんな
乗せたまま階段が
崩れ落ちたのです。



**上—バプテスマの日、
フリプシム(右)は
一人で教会へ行った。
アンダーソン姉妹(左)
を含め、たくさんの
友人が出席した。
母親と弟は、
バプテスマの直前に
到着した。
下—ソルトレーク・
シティーの
テンプルスクウェアで
伝道中の
ザティクヤン姉妹。**

それから、入念な福音の勉強が始まりました。そして4か月間真剣に学んだ末、バプテスマを受ける決心をしたのです。

その後間もなく、悪いことが立て続けに起こりました。仕事を失い、医学の勉強を中止しなければなりませんでした。わたしの興味や価値観が変わり始めると、古い友人は離れて行きました。しかし、何よりも受け入れ難かったのは、両親がバプテスマに反対したことでした。

わたしは心から両親を愛していました。両親は、どんな努力も惜しまないで最高の教育や環境を提供し、わたしが成し遂げてきたことを誇りに思っていました。ところが、バプテスマの決意を聞くとショックを受けたのです。両親の意思にそぐわないことをしたいと

思ったのは、これが初めてでした。それは、家族みんなにとってつらいことでした。しかしわたしは、神がバプテスマを受けるように望んでおられることを知っていました。たとえ家族に反対されても、天の御父を否定することはできなかったのです。

家族はバプテスマ会へ来ることを了承しませんでした。そのため、バプテスマの当日、わたしは一人で教会へ出かけました。バプテスマ会にはたくさんの人が来てくれていましたが、「家族」のように思うことができたのは二人の宣教師だけでした。ところが、バプテスマフォントへ行こうと振り返ったとき、母と弟の姿が見えたのです。人生最良の日でした。家族の存在が、一筋の光のように明るい未来への希望を持たせてくれたのです。



福音の光を分かち合う

翌年は祝福にあふれていました。支部の責任やボランティア活動に加え、私立病院に就職が決まり、医師となるための教育を受け続けることができるようになりました。バプテスマの後、母が何度か教会の集会に来て、5か月後に教会に入りました。しかし何よりも貴重だったのは、人生が天の御父の愛に照らされ、やっと天の家へ戻る道を歩んでいるのだと確信できたことです。

その後、福音が人生にもたらした光を人々に伝えたいと思い、バプテスマからちょうど1年後に、専任宣教師として伝道に出るための申請書を提出しました。父の心が和らいでいることを願いつつ、決心したことを父に報告しました。期待に反して、父の反応は怒りに満ちていました。わたしは一晚中、自分の部屋で静かに座っていました。翌日、仕事が終わってからも帰宅するのがとても恐ろしく、残って仕事をしていました。すると、父が職場にやって来たのです。長い沈黙の後、父はようやく口を開き、こう尋ねました。「ほんとうに家や友達、学校、仕事、すべてを置いてまったく知らない場所へ行きたいのかい？」わたしは「はい」と答えました。それから伝道に行くために家を離れる日まで、父とは言葉を交わしませんでした。伝道に出発したのは、ユタ州ソルトレーク・シティー、テンプルスクウェア伝道部への召しを受けた10日後のことでした。

新しいモルモン書

伝道に出たとき、母と妹は教会の会員になっていました。6か月後、母は手紙でこう知らせてきました。「家で新しいモルモン書を見つけました。お父さんは照れながら、『お母さんが自分のを置き間違えたんじゃないのか』と言っています。とても楽しみです。何かが起きています。」後で分かったことですが、伝道に出て4か月たったころ、父は通りで宣教師を止め、伝道はどんなものか、どこで食べたり寝たりしているのか、どのような援助を受けているのか、どのような日程をこなしているのかなどと尋ねたそうです。どうしてこの教会がわたしにとって何よりも大切なのか知りたかったのです。

伝道に出て8か月後、父から初めて手紙が届きました。このように書いてありました。「2000年12月2日、バプテスマを受けた。少しずつ福音を学んだよ。おまえを誇りに思っている。決してあきらめることなく、わたしたちをこの道へ導いてくれた娘をととても誇りに思っているよ。」伝道を終えるころには、家族全員が福音を受け入れ、ほかにも多くの親戚や友人が教会に入る決意をしていました。



**フリプシムが伝道を終えたとき、家族全員と多くの親戚、友人がバプテスマを受けていた(上)。
フリプシムの父親も伝道中に改宗し、手紙にこう書き記した。
「決してあきらめることなく、わたしたちをこの道へ導いてくれた娘をととても誇りに思っているよ。」**

光の中で生きる

わたしは真理を学んできました。ですから、有意義な良い人生を送らねばならないと強く感じます。神が生きておられ、わたしたち一人一人を愛しておられることを知っています。どのような教育を受けたか、あるいはどのような背景があるかは関係ありません。主に近づくなら、主の愛を感じることができます。両親から学んだので知っているわけでもなく、周りの人たちが信じていたから分かったわけでもありません。心の底から感じるのです。最初に会った宣教師の目に輝いていた光は、初めて集会所を訪れて、懐かしい我が家に戻って来たと感じたあの同じ光です。家族が一人ずつ教会に加わるたびに、その目に宿っていた光です。聖典の中にも書き記されているあの光です。「あなたがたがわたしの栄光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの全身は光に満たされ〔る〕……であろう。」(教義と聖約88:67) ■

フリプシム・ザティクヤン・ライトはソルトレーク大学第1ステーク、ソルトレーク大学第3ワードの会員です。

上—バプテスマの日にフリプシム(左)は一人で教会へ行きました。アンダーソン姉妹(右)を誘い、たまたまの友人が出席した。母親と弟は、バプテスマの直前に到着した。下—ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアで伝道中のザティクヤン姉妹。

質疑応答

どうしたらメルキゼデク神権を受けるために 最善の備えができるでしょうか

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

『リアホナ』からの提案

小 神権であるアロン神権は、「天使の働きと備えの福音の鍵かぎを持つものであ〔り〕……この福音は、悔い改めとバプテスマと罪の赦ゆるしの福音」です（教義と聖約84：26-27）。大神権は旧約聖書の大祭司メルキゼデクにちなんで名付けられ、「王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を持つ」ものです（教義と聖約84：19）。メルキゼデク神権はさらに高い儀式を執行し、霊的な祝福を施す権利を含みます。そのため、あなたはより高い神権を受けてから、執事、教師、祭司で経験したことよりももっと幅広い経験をすることでしょう。

数ある責任の中でもとりわけ、執事は聖餐せいさんを配ったり、断食献金を集めたりすること、教師は聖餐の準備や、ホームティーチングを行うこと、祭司はバプテスマを施し、聖餐を

アロン神権の義務を果たせるようになることで、メルキゼデク神権に備えることができる。

アロン神権者はより高い神権に備えるに当たり、あらゆる面でふさわしい生活をしなければなりません。

責任感を培う。
メルキゼデク神権者にはたくさんの責任が伴う。

神権を行使することは、イエス・キリストの名によって行動することである。祈り、断食し、聖文を学び、戒めを守り、奉仕することによって主に近づくことができる。

祝福し、執事や教師、祭司を聖任することができます。こうしたアロン神権の責任はすべて霊的なものですが、メルキゼデク神権の儀式や義務は本質的にさらに霊的なものです。ですから、より高い神権を受けるに当たり、聖霊の賜物たまものや神権の祝福を受けるといった、さらに偉大な責任に対して自らを霊的に備えなければならないのです。

備えの大部分は、アロン神権のすべての義務を熱心に果たし、どのような召しを受けても、それを尊んで大いなるものとすることにあります。あなたは救い主の神権を受けるために備えているのであり、その権能を使って人を祝福するのです。そのため、もっと救い主に近づくようなことをしなければなりません。祈り、断食し、聖文を学び、戒めを守り、世の有害な影響を受けないようにし、人に奉仕する必要があります。



読者からの提案



あなたはアロン神権を受けたことで、メルキゼデク神権を受ける備えをすでに始めています。これから先もっと多くの責任が与えられるので、今はあなたに授けられているアロン神権の責任を果たす必要があります。

モンゴル・ウランバートル北地方部、
オールドダーカン支部
オユンスレン・バンディ、20歳



アロン神権にもメルキゼデク神権にも共通しているのは奉仕という概念です。神権とは奉仕です。アロン神権を持つにふさわしい人は、メルキゼデク神権を持つ者として、より大なる奉仕をするために備えられるのです。教義と聖約第84章を勉強して、準備をしてください。戒めに従えば、あなたの忠実さが人に喜びをもたらすでしょう。

アルゼンチン・サルタ伝道部
ジェフリー・ジャーディン長老、21歳



アロン神権の責任と、それを通して得られる経験は素晴らしいものです。それはアロン神権を通して感じる御霊にも同じことが言えます。しかし、わたしたちはメルキゼデク神権を通してさらに成熟し、責任感を持つようになり、愛と喜び、そして慈しみをさらに強く感じられるようになるのです。メルキゼデク神権を受けるには、聖文を研究し、祈らなければなりません。

イタリア・カタニア地方部、
カタニア第1支部
ジョン・ルーイ・アンブロシオ、18歳



セミナーや教会のほかのクラスに出席することで、より高い神権の本質を理解できるようになりました。特に、教義と聖約第13, 20, 84, 107章を勉強しました。これらの聖句からは、二つの神権について広い知識を得ることができます。神権を尊ぼうと努力すればするほど、わたしの生活には大きな違いが表れてきます。

ブラジル・オリнда・パウリスタステーク、
カエテスワード

ウンベルト・マーティンズ・デ・アラウホ・ジュニア、22歳

聖文を学び、祈り、戒めを守るなら、メルキゼデク神権を受けるのに備えることができます。主はこうおっしゃいました。「わたしは、……教えに教え……を加えて、それを人の子らに与えよう。」(2ニーファイ28:30) これは、福音の中で成長するためには、勤勉に働き、忍耐を持たなければならないという意味です。

アルメニア・イエレバン地方部、コミタス支部
グリゴヤン・バブケン、18歳



神権を使って慈善奉仕を行い、祭司としての召しを尊んで大いなるものとするれば、必然的にメルキゼデク神権の職務を行う祝福に備えられます。また、宣教師として奉仕するために備えられます。

チリ、サンティアゴ東伝道部
ベニー・C・スミス長老

神権について考えると、天の御父とイエス・キリストがどれだけわたしたちを愛してくださっているかを感じることができます。神権とは、救いに必要な儀式を行う偉大な特権であり、ふさわしい生活をするのが大切です。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようではなければならない」とおっしゃった救い主



「わたしたちは若いアロン神権者である皆さんに期待しています。皆さんが必要で、ヒラマンの2,000人の年若い兵士のように、皆さんも神の霊の息子であり、皆さんも天から力を授かり、神の王国を築き、守ることができるのです。ちょうどあの兵士たちと同じように、皆さんにも神聖な聖約を交わしてもらう必要があるのです。ちょうど彼らがそうであったように、皆さんにも完全に従順かつ忠実になってもらう必要があるのです。」

十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード
「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」
「リアホナ」2002年11月号、47

の言葉が好きです(3ニーファイ27:27)。
ウクライナ・キエフ地方部、カーキエフスカ支部
ニック・チェメゾフ

アロン神権は準備の神権です。すなわち、メルキゼデク神権を受けてからは、以前とは違った経験もあるということです。日の栄えの結婚のような儀式は、より高い神権を持っている人が執り行います。アロン神権の責任を果たすことによって、メルキゼデク神権を受ける備えをすることができます。

ウルグアイ・モンテビデオ西ステーク、
モンテビデオ第10ワード

エベルス・ラウール・アルバレス・コメサーニャ、23歳

若い男性にとって、メルキゼデク神権を受ける以上に神聖なことはありません。神権に伴う責任はさらに重くなりますが、召しを尊んで大いなるものとするなら、祝福も増すのです。メルキゼデク神権に備える最善の方法は、毎日ふさわしく生活することです。

ペルー・ベンタニラスステーク、ネイバルワード
モイゼス・ネフィ・モラレス・ゴンザレス、17歳

あなたの意見を聞かせてください。

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する答えを、氏名、年齢、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を同封して、2003年11月1日までにQuestions and Answers 11/03, Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA に郵送するか、cur-liahona-imag@ldschurch.orgあてに電子メールで送ってください。

質問

「何年も前に、誘惑には屈しないと決意したにもかかわらず、何度も同じ誘惑と戦っています。これまでは耐えることができました。主はなぜわたしの決意を認めて、この誘惑を取り除いてくださらないのでしょうか。」■

神に会う備え

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証^{あかし}を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

アルマ34：32——「現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。」

十二使徒定員会 マービン・J・アシュトン(1915-1994年)——「10人のおとめ〔マタイ25：1-13参照〕が表しているのは、イエス・キリストの教会の民であり、この世の一般の人々ではありません。……自分の明かりの油を用意しておく責任は、一人一人に課せられた義務であり成長の機会です。霊的な備えという油は、人に分けてあげられるたぐいのものではありません。……このたとえでは、油は店で買うことができましたが、人生においては、義にかなった生活によって一滴ずつ満たしていかなければならないのです。」(“A Time of Urgency,” *Ensign*, 1974年5月号, 36)

大管長 ハロルド・B・リー(1899-1973年)——「自分自身の悪い行いを悔い改める日をどれだけ引き延ばしてきたのでしょうか。わたしたちの受ける裁きは、各自の様々な能力や限界、機会、障害などを考慮に入れてくださる『公平な審判者』の前で行われます。罪を犯して悔

い改め、その後は目的に向かって努力して生活する人は、公平な審判の日に、多くを失うことはないでしょう。重大な罪を犯していないとはいえ、能力と機会を授かりながら行動することを怠って惨めな状態に陥っている人は、多くを失うのです。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』236)

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス——「最後の裁きとは、善悪の行為——つまりわたしたちが何を行ったか——を集計して評価するだけにとどまるのではなく、行いと思いがもたらす最終的な結果——つまりわたしたちがどのような人物になったか——を確認することであると結論することができます。表面的な行動だけでは不十分です。福音の戒め、儀式、聖約は、天の口座に預金しておかなくてはならない行為のリストではないのです。イエス・キリストの福音は、天の御父がわたしたちに望んでおられる状態に到達する方法を示す設計図です。」(「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 40)

アルマ5：28——「見よ、あなたがたは高慢な心を取り去っているか。わたし

はあなたがたに言う。もし取り去ってなければ、神にお会いする用意ができていない。」

モロナイ7：47——「慈愛はキリストの純粋な愛であって、……そして、終わりの日にこの慈愛を持っていると認められる人は、幸いである。」

中央扶助協会第二副会長 アン・C・ピングリー——「家族単位、また家庭単位による純粋な愛の小さくて簡単な行為、すなわち慈愛を実践することによって、世界を変えることができるのです。……慈愛の行為は、少しずつわたしたちの心を変え、人格を形成し、ついには『わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください』と勇気と決意をもって主に言える女性にしてくれるのです。」(「慈愛——家族単位、家庭単位による行為」『リアホナ』2002年11月号, 108)

大管長 スペンサー・W・キンボール(1895-1985年)——「警告に耳を傾け、備えをする人、真夜中に義の油で満ちた明かりを持っている人、忍耐し、長く堪え忍び、完全に献身する人は、主とともに晩餐^{ばんさん}の席に着くことができると約束されています。」(Faith Precedes the Miracle〔1972年〕, 257)

● 自分の明かりの油を満たしていくために、どのようなことができるでしょうか(教義と聖約45：56-57参照)。

● いっそう慈愛にあふれ、高慢を抑えるために、何ができるでしょうか。■





ふつつかな僕

イエスは弟子たちに信仰と忠実さ、
そして主の恵みとわたしたちの働きの
関係について教えられました。

七十人
W・ロルフ・カー



ユタ州北部で両親が経営していた農園で、男ばかり4人兄弟の中で育ったわたしは、知恵と愛と先見の明を持つ両親から、数々の貴重な教えを受けました。両親の言葉と模範により、主を信頼することを学びました。「すべての勝利と栄光は、[わたしたちの]熱心さと、忠実さと、信仰の祈りを通して[わたしたちに]もたらされる」ということも学びました(教義と聖約103:36)。主イエス・キリストとその教えに忠実であることを学んだのです。

地上での使命を果たしている間、救い主は、弟子たちに信仰と忠実さについて教えられました。主の言葉の中には、新しく、かつ厳しく感じられる行いを必要とするものもありました(ルカ10-19章参照)。その教えに圧倒され、

弟子の中にはこう懇願する者もいました。「わたしたちの信仰を増してください。」(ルカ17:5) 救い主はそれに対して、ある教義をお示しになりました。わたしたちにはさらに厳しく思えるかもしれないような教義でした。信仰と忠実さのたとえです。この、ふつつかな僕のたとえは、堅固な人生とはどのようなものかを分かりやすく描写しています。このたとえの中にある原則は、イエスが語られた時代のみならず、現代においても応用することができます。

僕と主人

イエスは次のように言って、たとえを始められました。「あなたがたのうちのだれかに、耕作か牧畜かをする僕があるとす。」(ルカ17:7) イエスの時代、僕は主人の財産であり、使用



人というよりも奴隷に近いものでした。僕は、主人の用事が何であれ、行うように法律で義務づけられていました。例えば作物を植える、羊の世話をする、食事を準備し、給仕をする、などが僕の仕事でした。それと引き換えに、主人は僕の面倒を見ました。

救い主の問いかけは続きます。「その僕が畑から帰って来たとき、彼に『すぐきて、食卓につきなさい』と言うだろうか。かえて、『夕食の用意をしてくれ。そしてわたしが飲み食いをするあいだ、帯をしめて給仕をしなさい。そのあとで、飲み食いをするがよい』と、言うではないか。」(7-8節)僕には何を差し置いても主人の必要を満たすことが義務づけられています。主人の食事がまだ準備できていないのに、主人が僕に「下がって食事をしてもよい」と言うな

ど、とうてい考えられないことでした。

そしてイエスはたとえの締めくくり、次の疑問を投げかけられました。「僕が命じられたことをしたからといって、主人は彼に感謝するだろうか。[わたしはそうは思わない。]」(9節、括弧内は欽定訳聖書から和訳)僕は働きに対する感謝を期待すべきではありません。なぜなら、かねて果たすと約束していた任務を果たしたにすぎないからです。

弟子たちがこのたとえの意味を確実に理解できるよう、救い主はこのように強調されました。「同様にあなたがたも、命じられたことを皆してしまったとき、『わたしはふつつかな僕です。すべき事をしたに過ぎません』と言いなさい。」(10節)主人はすでに必要なものをすべて僕に与えているのですから、僕は主人に借り

イ エスの時代、僕は主人の用事が何であれ、行うように法律で義務づけられていました。たとえば作物を植える、羊の世話をする、食事を準備し、給仕をする、などが僕の仕事でした。それと引き換えに、主人は僕の面倒を見ました。

を返すために働くだけであり、初めから義務づけられていた任務を果たしただけのことなのです。

このたとえでイエスは弟子たちに、信仰と忠実さについて教えようと言われていたのだと、わたしは確信しています。農場で育ったわたしは、子供のころからこの原則について学んできました。

忠実と勇敢の原則

農場で4人の男の子が成長していく姿を思い描いてみてください。わたしたちにとって忠実であるというのは、2マイルの精神を持つことでした。つまりいちいち指示される前に、自分で察知し、行うことが求められていたのです。牛にえさをやるとは、干し草や、穀類や、発酵させた牧草を、ただかきおけに投げ入れるという意味ではありません。わらを束ねる針金、散らかった干し草、こぼれた穀類を片付けることでもありました。牛の世話をすると、牛の世話をするとは、柵や門を確認し、牛舎を掃除して、きれいなわらを敷き、病気や足の悪い牛がないか確認することでした。畑を耕すというのは、単にトラクターを畑の端から端まで運転することではありません。鋤を機械に正しく固定すること、柵や水路の土手ぎりぎりまで丁寧に耕すこと、機械を手入れすること、道具や器具を元の場所にきちんと戻すことなども求められるのです。

食卓は、食事をするだけの場所ではありませんでした。教えを受ける所、気持ちや経験を伝え合う所、将来の計画をする所でもありました。家庭は単に住む所ではなく、家族全員で常に掃除をし、定期的に改装する場所でもありました。皿はただ食べ物を載せるものではありません。洗って、食器棚にきちんとしまう必要があります。果物や野菜はひたすら食べてしまうのではなく、缶詰や瓶詰にしたり、冷凍したりします。家事は子供たちが担当する仕事の一部でした。「行う価値のある仕事は、立派に行う価値のある仕事である」という格言を肌で学んでいたのです。

勇敢であるとは、必要最低限よりも多くを行い、忠実に自分の義務を成し遂げることです。つまり最善を尽くして

働くことであり、期待をかなり上回る働きをすることなのです。わたしたち子供にとって、両親は、勇敢とはどういうことなのか、忠実に模範で示してくれる存在であり、二人の姿を見てきたことが役に立ちました。父は農場での長い一日の仕事を終えると、ホームティーチングに出かけましたし、さらに長年にわたって教会の様々な召しを引き受け、立派に果たしていました。母は農場で働き、神権者として責任を果たす夫を支え、そのうえ自分自身もワードやステーキで多くの責任を果たしていました。両親は忠実でした。そして確かに勇敢でした。

今日の世の中で忠実さを保つことは難しいという意見を表す教会員が時々います。こう言うのです。「什分の一を納めるのは大変だ。」「道徳的な清さを保つのは難しい。」さらにはこうも言います。「末日聖徒でいることは難しい。」実際、イエス・キリストの福音に従う者に困難が待ち受けているという事実は、何も今に始まったことではありませんし、救い主は、そのような難しいことを行うのに必要な強さを惜しみなく与えてくださいます。

イエスは弟子たちに厳しいことを数多く教えられました(ヨハネ6:60参照)。もしわたしたちが「つらい人生だ」とか「とうていやりきれない」とかと思いがちであるとするれば、救い主はどうおっしゃるのでしょうか。恐らく、使徒たちに尋ねたのと同じように、こうお尋ねになるのでしょうか。「あなたがたも去ろうとするのか。」(ヨハネ6:67) 救い主は惜しみなく与えてくださる、情け深い御方です。わたしたちがそのことに気づくよう、そしてペテロと同じように答えられるように、わたしは祈っています。「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」(ヨハネ6:68-69)

救い主は弟子たちに、たとえ厳しいと感じる教義に対してでさえも忠実であるよう求められました。しかし、主が弟子たちに理解してほしいとお望みになったことがもう一つありました。主人を喜ばすことは、単なる労働観以上の問題であるということです。それは心の問題でもあり、天の御父との



**わたしたちの農場では、
勇敢であるとは、必要最低限よりも
多くを行い、忠実に自分の義務を
成し遂げることでした。**

関係という問題でもあると教えられたのです。

信仰と恵みの原則

農場育ちのわたしたちは、物理的にも霊的にも、主と両親から一切の恩を受けていることがよく分かっていました。アミュレクがゾーラム人に「朝も昼も晩も」自分自身の幸せのために、また周りの人々の幸せのために祈るよう教えたように(アルマ34:19-27参照)、わたしたちも同じことを教えられました。家族と個人の祈りは日常的なことでした。言葉と模範を通して「収穫をつかさどる主」に信仰を持つように教えられました(アルマ26:7参照)。鋤き返し、植え、水を引き、耕してからのことは、主の手にゆだねるのです。一生懸命働きましたが、日照や雨、神の恵みと^{あわ}憐れみ、そして愛情深い両親の思いやりがなくては、何もできないということが分かっていました。

この神への信仰、あるいは神への依存は、ベニヤミン王が次の言葉で教えたことではないでしょうか。「あなたがたを造[ってくださった]神に、たとえあなたがたが全身全霊の力を尽くして一切の感謝と賛美をささげたとしても、……たとえ全身全霊を尽くして仕えたとしても、それでもなお、あなたがたはふつつかな僕である。……さて、わたしは尋ねたい。あなたがたは自分自身のことを何か少しでも言えるだろうか。言えないと、わたしはあなたがたに答える。」(モーサヤ2:20-21, 25)

わたしたちは自分の命に対して、神に恩があります。神の戒めを守ることは義務ではありませんが、戒めを守ると、神はすぐにそれに対する祝福を下します。ですからわたしたちは、どうしてもお返しすることができないふつつかな者なのです。恵みがなければ、わたしたちがいかに勇敢であっても救われることは不可能です。

十二使徒定員会のニール・A・マクスウェル長老は、このたとえについて以下のように述べています。

「神の寛大さ[あるいは恵み]は、義務を軽く



することによって表されるのではありません。多く与えられる者からは多く求められるのであって、決してその逆ではないのです。神の寛大さは、義務に関する神の要求標準を下げることによって表されるのでもありません。そうではなくて、神は、弟子が多くをささげ、多く果たすときに、驚くほどの寛大さを表されるのです。

ささげるものをすべてささげ、なすべきことをすべて果たしたのであれば、いつか『[わたしたちの]父が持っておられるすべてが』与えられるのです[教義と聖約84:38]。そこに神の寛大さが表れるのです。義務を果たすとき、神は約束を守ってくださいます。喜んで約束を守ってくださるのです。』¹

イエスはふつつかな僕のたとえを通して、弟子たちとわたしたちに、信仰と忠実さについて教えられました。そして勇敢さと恵みについても教えられました。期待される最低限のことよりも多くを行って、勇敢でありましょう。「神の恵みだけが、キリストにあって人を完成へと導く力を持っている」という事実を、感謝の心をもって理解できますように(モロナイ10:32-33参照)。■

注

1. *Even As I Am* (1982年), 86

わ たしたちは
自分の命に
対して、
神に恩があります。
神の戒めを守ることは
義務ではありませんが、
戒めを守ると、
神はすぐに
それに対する祝福を
下します。
ですからわたしたちは、
どうしてもお返しする
ことができない
ふつつかな者なのです。
恵みがなければ、
わたしたちが
いかに勇敢であっても
救われることは
不可能です。

あの本

わたしはその本を長いこと無視していました。そしてついにその本を開いたとき、人生を永遠に変えることになったのです。

スイット・サイサム-アン

その青い本を手
に取る機会
は何度か
ありました。
手に取ってみると、
もっと読みたく
なりました。
主がわたしの
生涯の計画を
お持ちであることが
分かりました。

タイのコンケンにある大学の寮に入ったとき、部屋の隅に青い本があるのに気づきました。一度も手に取らず、何か月も後に寮から引っ越したときも本には触れませんでした。

大学を卒業してから、わたしは地元のカラシンに戻りました。ある日友達の家に行くとき、テレビの上に青い本がありました。寮にあった本のことを思い出し、こう尋ねました。「その本をどこで手に入れたんだい。」友人は、宣教師がくれたのだと言いました。わたしも同じような本を見たことがあるけれど、どんな本なのかは知らないと言うと、彼も読んでいないとのことでした。

その本を手に取り、わたしはついに表紙の言葉を読みました。「モルモン書——イエス・キリストについてのもう一つの証」と記されてい^{あかし}ました。それからばらばらと本をめくり、ヤコブ書の第5章が目にとまると、栽培されたオリーブの木と野生のオリーブの木について読み始めました。象徴していることの意味はあまり分かりませんでした。読んでいたら幸せな気持ちになりました。

日がたつにつれ、わたしはその本をもっと読みたいと思ったので、友人の家に借りに行きました。家に着くと、友人は二人の宣教師と話

をしているところでした。二人はリード長老とハロルドセン長老という名前で、わたしを訪問すると約束してくれました。宣教師たちは約束どおりに家を訪れ、天の御父の計画について信じていることを話してくれました。二人が話すと天の御父の愛を感じました。

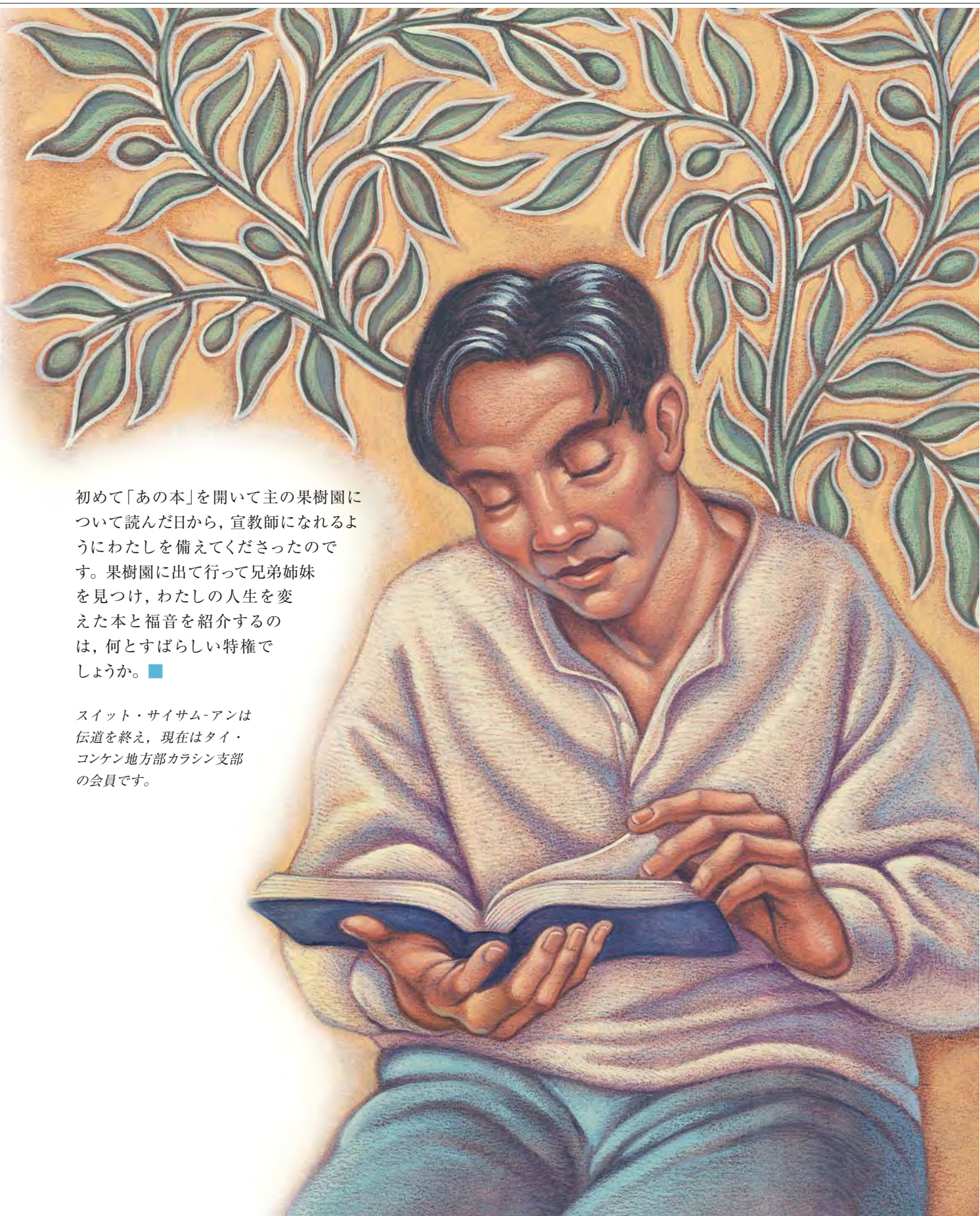
宣教師たちの勧めで、日曜日の教会に出席しました。出席者は10人しかいませんでしたが、カラシン支部が好きになり、また来ようと思いました。

わたしは1999年3月21日にバプテスマを受け、すぐに宣教師と働くようになりました。宣教師が懸命に福音を広めようとする姿を見て、神がその子供たちに抱いておられる愛を感じました。

バプテスマを受けて2か月後に、姉も証を得てバプテスマを受けました。その1か月後には、めいも受けました。教会員の協力で、小さな支部はすぐに3倍の大きさになり、30人ほどの出席者が定着するようになりました。

バプテスマの1年後には、タイのバンコクで専任宣教師として奉仕する召しを受けました。姉も同じ伝道部で働く召しを受けました。

主の真の教会の会員になったのは、運でも偶然でもないことを知っています。天の御父は、わたしのための計画を確かにお持ちで、



初めて「あの本」を開いて主の果樹園について読んだ日から、宣教師になれるようにわたしを備えてくださったのです。果樹園に出て行って兄弟姉妹を見つけ、わたしの人生を変えた本と福音を紹介するのは、何とすばらしい特権でしょうか。■

スイット・サイサム-アンは伝道を終え、現在はタイ・コンケン地方部カラシン支部の会員です。



ヒンクレー夫妻が 歩んできた道

大勢の末日聖徒が詰めかける会場で、マージョリー・ペイ・ヒンクレー姉妹が壇上に立つと、聴衆は一瞬のうちに穏やかな気持ちに満たされます。楽しい冗談を交え、心からの愛によって話しかけるヒンクレー姉妹は、わたしたちを家族の輪に優しく引き込んでくれます。まるで皆の母親か祖母であるかのように、ヒンクレー姉妹はわたしたちについて誇らしげに話します。主の助けがあれば、生活の様々な問題に打ち勝ち、喜びを見いだすことができると言って励ましてくれます。

ヒンクレー姉妹の夫ゴードン・B・ヒンクレー大管長も、壇上に立って話すと、まるで愛にあふれる父親か祖父のように、どうすればより良い子供、親、夫、妻、家族の一員となれるかを教えてくれます。

ヒンクレー大管長夫妻は、訪れる先々の教会で新たな「家族」を見つけているようです。それは5人の子供と25人の孫、35人のひ孫から成るヒンクレー夫妻の家族に加えられる家族です。ヒンクレー大管長夫妻は90年を超える生涯と66年の結婚生活の中で、どのような生活を送るべきかについて模範を示してきました。人が果たすべき最も大切な役割について、ヒンクレー大管長夫妻ほどの助言者はいません。大管長夫妻はこのほど教会機関誌編集者の取材に応じて、結婚生活と家族を強める方法について語ってくれました。

マージョリー・ペイ・ヒンクレー(上, 1937年の結婚直前)と
ゴードン・B・ヒンクレー(上, 1932年の卒業記念写真)は
愛し合うパートナーとして66年間ともに道を歩んできた。

「夫は自由に羽ばたく大空を与えてくれました」

教会機関誌——御二人は非常に長い間幸福な結婚生活を送ってこられました。どのような秘訣があるのでしょうか。

ヒンクレー大管長——すばらしい結婚生活を築く基盤となるのは、お互いを尊重することですね。つまり、お互いを尊敬し、お互いの安らぎと幸福に関心を持つことです。これがいちばん大切です。もし夫が自分自身について考えるのを控えめにして、妻をもっと思いやるようにすれば、教会のすべての家庭と世界中の家庭はもっと幸せになるでしょうね。

教会機関誌——ヒンクレー姉妹、あなたは以前、こうおっしゃいました。「[主人は]いつでも、わたしが興味を持っていることをさせてくれます。夫の考える方法やほかの方法で何かをするように強制されたことはありません。結婚当初から、主人は自由に羽ばたく大空を与えてくれました。」¹ ご主人はそれを実際にどのように行われたのでしょうか。

ヒンクレー姉妹——主人から何かをするように命じられたことは一度もありません。わたしに任せてくれるのです。一人の人間として尊重してくれて、わたしが幸せになることなら何でもするように勧めてくれます。命令しようとしたり、抑えつけたりすることは決してありませんでした。

教会機関誌——大管長、あなたはこう言われました。「自分の理想とする標準に妻を従わせる特権があると思いついて入っている人がいます。しかしそのような特権は存在しません。」² ヒンクレー姉妹に対してこのような思いを抱かないようにするために、どんなことをしてこられましたか。

ヒンクレー大管長——妻の個性、人格、望み、環境、願いを理解するように努めてきました。妻が自由に羽ばたけるようにするのは、そうです。妻が自由に飛んで、自分の才能を伸ばせるようにするのは、自分なりの方法で物事を行うのを認めて、口出しをしないことです。すると驚くような成果が見られますよ。

教会機関誌——大管長はどのようなことに驚きを覚えられ





上—1935年、
教会職員として
働いていたゴードン・
B・ヒンクレー。

たのですか。

ヒンクレー大管長
—そうですね。たくさんありますよ。……

ヒンクレー姉妹(ほへみながら)—難しい質問ですね。

ヒンクレー大管長—……妻はこれまでずっと家庭を切り盛りしてきました。子供たちが成長期の間、わたしは教会の責任で家を留守にすることが多かったのです。昔、長い間アジアで働く責任を受けていましたが、1回の訪問で2か月も帰れないことがありました。当時は現在のようにいつでも電話で連絡を取り合うことができません。妻が何から何まで引き受けてきました。家を切り盛りし、あらゆることを処理し、そして子供たちの世話をしてくれました。

かつて、わたしたちの家の裏庭には菜園がありました。あるとき、長い訪問を終えて帰ると、一面に芝が敷き詰められていました。妻と子供たちが菜園をシャベルで耕し、芝の種をまいて、美しい庭を完成させていたのです。

家の南側にも空いている土地があったため、菜園を作る場所はほかにありました。こうして、裏庭一面に、美しい芝のじゅうたんが敷き詰められました。

一事が万事、こんな具合でした。妻は自分で決断して実行しました。それに美しいものにかけては、目が高いのです。

「楽しく過ごす方が好きです」

教会機関誌—ヒンクレー姉妹、あなたはこう話しておられますね。「人生の様々な問題を解決する方法は一つだけです。それは楽しく乗り切ることです。楽しく生きることと、めめめそしながら生きることのいずれでもできるとしたら、わたしは楽しく過ごす方が好きです。めめめそしていても何の解決にもなりません。」³

ヒンクレー姉妹—笑って過ごせていないとしたら、それは大きな問題を抱えているとい

うことです。

教会機関誌—笑うことがいちばんの特効薬となった経験を紹介していただけますか。

ヒンクレー姉妹—ほとんどのことがそうだったと思います。子供たちが幼かったころのある日、わたしはオープン料理を作りました。自分では最高の出来栄えだと思っていました。オープンから取り出すと、息子のディックがこう言ったのです。「どうして生ごみを焼いたの。」

教会機関誌—そのとき息子さんは何歳でしたか。

ヒンクレー姉妹—14歳でした。もう少し気の利いたことを言ってもよさそうな年齢でしょう。

「家族のみんなが楽しく耳を傾けています」

教会機関誌—家族のきずなを強めるために、御二人はどのようなことをしておられますか。

ヒンクレー大管長—これまでたくさんのお話をしてきましたよ。子供たちがまだとても幼かったころから、夏にはどこかへ出かけて、何かを見るようにしてきました。子供たちが大きくなって、結婚してからもこの習慣を続けました。

あるとき妻は、子供たちと一緒に^{ホンコン}香港へ行って町を歩くのが夢だと言いました。それであ

ヒンクレー大管長が中央幹部に召されたころのヒンクレー家族。



妻のおかげで幸せな生活を過ごしてきた、とヒンクレー大管長は語った。
(上, 1943年ころ、二人の子供とともに)

るとき家族全員でアジアへ出かけました。次に、子供たちと一緒にエルサレムの町を歩いてみたいと言いました。そこでお金をためて、全員でエルサレムへ行きました。とても楽しい時間を過ごしました。

子供たちはほんとうに楽しんでいて、と妻に言いたいと思います。わたしたちは今でも家族と一緒に過ごす時間を取っています。1か月に1度、親族が集う家庭の夕べを開いています。ソルトレーク・シティーに住んでいて、来ることのできる子供たちや孫、ひ孫たち全員が集まります。子供たちが小さかったころにしていたことを、規模を大きくして行っているだけです。わたしたちは家庭の夕べを開いていました。わたしがいないときは、妻が家庭の夕べやそのほか大切なことを行ってきました。妻は、何事においても積極的に行動してきました。

教会機関誌——親族が集う家庭の夕べではどのようなことをするのですか。

ヒンクレー大管長——一緒に食事をして、それから語り合います。とても楽しいですよ。話し合うテーマは一つか二つだけです。家族のみんなが楽しく耳を傾けています。今のこのような時代に、このようなひとときを過ごせるのは、ほんとうに素晴らしいことです。

教会機関誌——確か、大管長は幼いころからご両親のもとで家庭の夕べに参加していたと言われましたね。

ヒンクレー大管長——そのとおりです。昔、ジョセフ・F・スミス大管長がこのプログラムを発表しました。1915年のことです。そのとき父はこう言いました。「家庭の夕べを開こう。」努力したのですが、最初はあまりうまくいきません。けれども、だんだんよくなっていきました。わたしたちはずっと家庭の夕べを開いてきました。父の家庭から始まって、次にわたしの家庭で、そして子供たちもそれぞれの家庭で開いています。

「最善を尽くしてください」

教会機関誌——勧告に従って家庭の夕べを開き、力のかぎり聖約に忠実に生活している



ヒンクレー大管長は妻とともに全世界を旅した(右)。1991年アルバータ州カードストーン神殿の再奉献のためにカナダを訪れた(上)。

にもかかわらず、道を踏み外してしまった息子や娘を持つ親に、何か言葉をかけてくださいませんか。

ヒンクレー大管長——どうか、最善を尽くしてください。最善を尽くしたら、その後は主にゆだねてください。信仰をもって歩み続けてください。

ヒンクレー姉妹——決してあきらめてはなりません。子供たちを見捨ててはなりません。

ヒンクレー大管長——だれかが見捨てないかぎり、失われる人はいないのです。このことを忘れないでください。ところで、わたしたちの家庭では幸いにも、そのような経験をしたことがありません。こう言えることに感謝しています。わたしの判断では、うちの家族は驚くほどうまくいっていると思います。すべてはこのかわいい女性のおかげです。

ヒンクレー姉妹——まあ、ありがとう。

教会機関誌——家庭の夕べを開いてほしいと心から願っているものの、そうしてもらえない家庭で生活している子供たちに助言をお願いします。

ヒンクレー大管長——子供たちにできることはたくさんあります。教会員の間にこのような状況があるのは残念ですが、それは事実です。けれども、子供たちは自分たちの最善を



写真: グレシーア・バント, Church News



上——1983年、メキシコ・メキシコシティー神殿の奉献式にて。



上— ヒンクレー大管長夫妻, その子供たちと義理の子供たち。1996年6月エルサレムにある「園の墓」にて。

尽くすことができます。時には親に影響を及ぼすことができるのです。子供たちが祈り、親に願ひ求めたために、生活の標準が引き上げられた家族はたくさんあります。思うようにいかない環境に置かれている子供たちは、教会の友達の家庭で霊性を高める経験をすることができます。子供たちが本来の享受すべき祝福と恵みにあずかれないのは悲しいことです。福音に従って生活し、教会のプログラムを実行するよう努力している家庭にいればそれらを受けられたはずなのですから。

教会機関誌——大管長のお父さんは、子供をしつけるときに手を上げたことが一度もなかったそうですね。⁴

ヒンクレー大管長——そうです。わたしは子供をしつけるためにたたいたり、そのほか暴力的なことをしたりする必要はないと考えています。愛によって子供をしつけることができますのですから。親が子供と一緒に静かに座って話し合うならば、子供に言い聞かせることができます。間違った行動や正しくない方法で物事を行うことによってどのような結果になるかを子供たちに話してください。そうすれば、子供たちは正しい生活をするようになるでしょうし、それに皆がもっと幸せになるとわたしは思

います。

父は子供を決してたたいたりしませんでした。わたしたち子供と静かに話すことがどれほどの効果を持つかをよく知っていました。わたしたちが間違った方向に向かっていると、父はたたいたり、鞭を振り上げたり、そのようなことを一切せずに正しい方向に向かせてくれました。わたしは子供に体罰を与えることに正当性があると思ったことは一度もありません。必要だとは思わないのです。

教会機関誌——ヒンクレー姉妹は「親が子供に、人をたたいてはいけないうことを、たたくことによって教えることはできません」⁵とおっしゃっていますね。

ヒンクレー姉妹——娘のジェーンがまだ幼かったころのことでした。ある日、友達が罰として外出禁止になったと言いました。わたしは「外出禁止って、それはどういう意味」と尋ねました。我が家では、子供たちに自分で解決方法を考えさせるようにしていました。子供たちが悪いことをしたら、自分でそれに気づいて、自分で解決方法を考えるようにさせていたのです。あるとき娘の一人が、日曜日に教会へ行かないで家にいることにする、と言ってきました。娘はそれを実行し、とても寂しい思いをしました。自分を残して全員が教会へ行ってしまったからです。ずっと芝生に座っているだけでした。それからは、二度とそのようなことをしませんでした。楽しくないばかりか、寂しい思いをするだけであることが分かったからです。

「期待していた以上の成果でした」

教会機関誌——ヒンクレー姉妹、ご主人が大管長に召されたとき、「わたしのようにすてきな女性がどうして大変な目に遭わなければならないのでしょうか」⁶と考えたとおっしゃって、聴衆を笑わせました。このすばらしい方と結婚して66年を過ごした今、その発言をどのように考えておられますか。

ヒンクレー姉妹——そうですね、期待していた以上の成果でした。すばらしい人生です。

ヒンクレー大管長——ほんとうにすばらし



**上—娘, 孫娘, 二人のひ孫とヒンクレー姉妹。
下—ヒンクレー大管長80歳の誕生日パーティーにて。**



い人生です。申し分のない人生です。これまでの人生で後悔していることは多くありません。もちろん、何度か間違いをしてきましたが、深刻な結果を招くような間違いはありませんでした。わたしはよくやってきたと思っています。

教会機関誌——結婚した若い人たちが今日直面しているチャレンジは、御二人が経験してこられたチャレンジと同じでしょうか。それとも異質のチャレンジでしょうか。

ヒンクレー大管長——基本的には同じです。わたしたちが結婚した当時、世界は大恐慌に見舞われていました。結婚したとき、わたしたちにはそれこそ何もありませんでした。だれもがそうでした。あらゆる人が貧しかったと思います。

ヒンクレー姉妹——自分たちが貧乏だとは感じませんでした。

ヒンクレー大管長——わたしたちは質素な生活から出発しました。その後、主は豊かな祝福を与えてくださいました。わたしたち以上に祝福を受けた人はいないのではないかと思います。もちろんわたしたちにも問題はありました。子供の病気やそのほか、親として経験するひとつおりのことを経験してきました。でも結局、素晴らしい女性とともに人生を過ごし、子供たちが幸せに成長して大人になり、人の役に立つような人物になることを見届けられるならば、人生は成功したと言えると思います。人生は、車を何台持っているとか、家がどれほど大きいとか、そのようなことによって計られるものではないのです。質的にどのような生活を送るかが人生の成否を分けるのです。

教会機関誌——意見の違いをどのように克服しておられますか。

ヒンクレー大管長——わたしたちは連れ立って歩んできました。そして、お互いに対して礼儀を重んじてきました。先ほどからお話しているように、お互いを尊重するかしないかで世界はまるで別のものになります。個人としてお互いを尊敬し、伴侶を自分の流儀に従わせようとしないことです。妻が自分なりの方法で生活することを受け入れて、才能や関心を追求するよう励ますのです。すると、もっと素晴らしい人生になりますよ。

心配なことがあるとすれば、それは、妻の生活を支配しようとして、あらゆることを指図する男性がいることです。それではうまくいきません。男性があらゆることを管理し、妻を支配しようとしている家庭では、子供たちも親も幸せを得ることはできません。夫婦はパートナーです。夫婦は、結婚生活、家族生活と呼ばれるこの大なる事業の同僚なのです。

ヒンクレー姉妹——わたしはいい同僚だったでしょう？

ヒンクレー大管長(笑いながら)——わたしたちは素晴らしい生活を送ってきました。わたしたちは今なお、お互いを認め合っていますよ。■

注

1. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith: The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 141で引用
2. *Cornerstones of a Happy Home* (パンフレット, 1984年), 5
3. バージニア・H・ピアス編, *Glimpses into the Life and Heart of Marjorie Pay Hinckley* (1999年), 107で引用
4. 「家庭の環境」『聖徒の道』1985年10月号, 3-4参照
5. *Glimpses*, 53で引用
6. *Glimpses*, 108参照

この会見は、マービン・K・ガードナーとドン・L・サールによってなされました。



最上——1997年
10月フィジーを
訪れる。

上——イエローストーン
国立公園にて。



上——1996年5月,
中国の深圳に
到着する。

左——1995年,
ヒンクレー大管長の
85歳の誕生日を
家族と祝う。



「歌ってあげなさい」

ルアナ・リッシュ

心 地よいベッドのぬくもりを楽しんでいたある土曜日のことでした。ポケットベルのけたたましい音にたたき起こされ、ささやかな幸せは突如吹き飛んでしまいました。セメント工場の火事を知ったわたしは、慌ただしく装備すると、部屋を出ました。ヘルメットをかぶれば、寝癖の付いた髪を隠すことができるのは好都合です。小さなこの町の消防署員となり、救急救命士として働き始めて以来、身だしなみには気を遣わなくなっていました。

セメント工場の火災はすぐに消し止め

られたものの、休む間もなく、ポケットベルが再び鳴り始めました。高速道路で事故が発生し、救急救命士出動の要請が来たのです。けが人の中には4歳の男の子がいました。この任務は大変困難であると判断し、同僚と二人で直ちに折り始めました。大けがをした子供を手当てするのは、救命士といえども不安を感じずにはいられないのです。

事故現場に到着すると、中央分離帯上に1台の白いワゴン車が逆さまになっているのが目に入りました。けが人は恐らく車内に閉じ込められているだろうと推測し、急いで現場を見渡すと、高速道路の反対車線から呼ぶ声がしました。子供とおぼしき小さな人影の周りに人垣ができていました。偶然いあわせた医者が、子供のおもなけがについてわたしに報告

し、そのまま人込みの中に消えて行きました。男の子の手を握り、励ましていた女性に子供の名前を知っているかどうか尋ねると、「ライアンといいます。わたしの息子です」という答えが返ってきました。驚いたことに、母親と二人の年長の子供は無事でした。

目 の前の幼い患者は泣き叫んでいます。わたしはおびえる男の子をなだめ、おまじないのキスで痛みを消してあげたいと思いました。また、心配している母親を励ましたいと思いました。熟知した手順どおりに処置を施しながらも、無力さを感じていました。



患者に最善の手当てができるように、救急救命士は決められた手順に従って処置を施します。ところが処置手順をどんなに完璧にマスターしても、悲惨な事故現場での任務で、救命士が直面する人間的な苦悩を克服することはできないのです。研修で学んだ知識を頭の中で再確認する一方で、くじけそうになっていたことを覚えています。負傷した幼いライアンは泣き叫んでいました。わたしはおびえるライアンをなだめ、おまじないのキスで痛みを消してあげたいと思いました。また、心配している母親に、ライアンはきっとよくなると約束することができればと思いました。熟知した手順どおりに処置を施しながら、無力さを感じ、孤独感にさいなまれていました。同僚はワゴン車の中に閉じ込められた父親を救助しなければならなかったのに、ライアンの手当てを手伝ってもらうことはできませんでした。

間もなく救急車が到着しました。病院へ着くまでの間、車内でライアンの頭を支えなければなりません。頭上にひざまずいて小さな声で話しかけましたが、ライアンは泣き叫び、暴れ続けました。そのため、けがの悪化が心配でしたが、ライアンを押さえつけると、別のトラブルが生じる恐れがありました。

わたしはこれまでに増して熱心に祈りました。ライアンを慰め、心を落ち着かせ、苦しみを和らげるにはどうすればいいか教えてくださいと、天の御父の祝福を願い求めました。直ちに「ライアンのために歌を歌いなさい」という答えが心に浮かびました。ためらいを感じたわたしは、与えられた答えを正しく理解できたかどうか神に尋ねました。専門家としてほかの手段を取ることもできるはずです。救急救命士が、救急車の中で重症患者に歌を歌って聞かせる姿など想像でき

るでしょうか。

ライアンは泣き叫びました。そしてわたしは再び、「ライアンのために歌を歌いなさい」というはっきりした指示を心に受けました。ライアンの頭を支えながら、そとかがみ込んで耳もとに口を近づけ、わたしは歌いました。「きらきらと輝き、ほほえみ投げかけ」（『星のように』『子供の歌集』84）。歌を聞いてライアンはおとなしくなりました。続いて「神の子です」などの初等協会の歌を次々に歌いました。取り乱したライアンの母親と一緒に歌おうとすることを見て、ライアンが末日聖徒だということが分かりました。ライアンがあまりにも静かになったので、同乗の特別救急医療士が、容態が悪化したのではないかと不安になることが何度かありましたが、ライアンはわたしたちの呼びかける声に反応を示しました。病院に着き、緊急治療室で待機していた担当医とスタッフの手にライアンをゆだねるまで、わたしは歌い続けました。

その日の仕事を終えたわたしは、ライアンと父親のことが気になって再び病院を訪れました。ライアンは手術を受け、術後の容態は安定しているとのことでした。ライアンも父親も長い入院生活を余儀なくされるとはいえ、二人の容態を聞き、感謝せずにはいられませんでしたが、この出会いをきっかけにライアンと親しくなり、今でも写真入りのクリスマスカードが届くのを毎年楽しみにしています。

大好きな歌を聞いた瞬間、天の御父が自分をどれほど愛してくださっているかを思い出した幼い患者は、心の平安を取り戻しました。このように祈りの答えが与えられたことを、わたしは決して忘れないでしょう。緊急医療の効用は確かに偉大です。けれど、初等協会の歌が持つ美しさと素朴さは、穏やかで深遠な奇跡

として、わたしの記憶の中に永遠に生き続けるでしょう。■

ルアナ・リッシュはアイダホ州マッキヤモンステーク、ラビッドクリークワードの会員です。

ただのセールス チャンスとしか思っ て いませんでした

ヨランダ・ザヤス

夫とわたしはどちらも宗教と道徳の原則を基とする家庭に育ちましたが、自分たち自身の5人家族が霊的に成長する様子には、満足できずにいました。3人の子供ビバリー、ジャニス、ラルフを連れて、わたしは幼いころから慣れ親しんだ教会に通っていましたが、でも、夫のラルフはどの教会も商売だと言い、教会に行こうとしませんでした。どの教会も金もうけが目的で、教会の指導者は会員の寄付から利益を得ていると夫は考えていました。また、教会の出版物は販売すべきではなく、希望する人に無料で配付すべきだという考えを持っていました。

1986年2月、二人の末日聖徒の宣教師が我が家の前を通り過ぎるのを見かけ、夫は二人を呼び止めました。目的は、彼らの所属する教会では集会所の建設用地を買い入れる計画があるかどうかを聞くことでした。夫は不動産業を営んでおり、宣教師に聞けば、土地を売ることができるとは思っていたのです。

夫は、土地購入については何の情報も得ることはできませんでしたが、回復さ



れた福音について話し合うために時間を取ってほしいと、宣教師に言われました。彼らの教会もこれまでに行った教会と大差ないに違いないと決めてかかった夫は、宣教師に翌日もう一度来るように言いました。彼らの教会も単に金もうけのために神を利用しているだけだという事実を突きつけようと考えていたのです。

翌日宣教師が尋ねて来たとき、わたしたちは多少の疑いを抱いていました。けれど宣教師が教会とその歴史について話し始めると、心の中に何か非常に特別なものを感じました。帰り際にモルモン書を手渡されたので、夫は代金を尋ねました。無料だと言われて、夫は驚きました。また、この教会は営利主義にまったく毒されていないと知ったときの夫の驚きは、さらに大きなものでした。興味を引かれた夫は、宣教師にいろいろな質問をしました。

その日以来、毎週日曜日に教会に行きました。そして1987年7月15日、一家そろって改宗したのです。バプテスマを受

宣 教師がモルモン書を
手渡したので、夫は代金
を尋ねました。無料だと
聞き、夫は驚きました。

けると、わたしたちはその後神殿で家族として永遠の結び固めの儀式を受けました。息子のラルフは専任宣教師として奉仕し、神殿で結婚しました。2人の娘は神殿で帰還宣教師と結婚し、わたしたちは現在健康でかわいい9人の孫に恵まれています。

夫とわたしはこれまで教会で数々の召しを果たし、霊的に成長してきました。また、支部の中で福音がはぐくまれるよう、働き続けました。わたしたちの支部は美しい魅惑の島プエルトリコの南部にあります。夫はサリナス支部の支部長を

2度務めました。支部長の仕事は大変でしたが、支部の会員であるわたしたち一人一人の模範は、たくさんの良い種となってこの小さな町のあちこちにまかれたのです。

これ以上天の御父に望むことがあるでしょうか。わたしたちの感謝の気持ちはとこしえに続くものです。ちょっとしたセールスをして、教会は営利事業だという証拠をつかむつもりで始めたことが、我が家にとって日の栄えに続く偉大な仕事になりました。それは家族が救い主イエス・キリストと天の御父とともに永遠にわたって結ばれる機会だったのです。

ヨランダ・ザヤスはプエルトリコ・グワヤマ地方部、サリナス支部の会員です。

教会に導かれ

ヤダムスレン・ムンクツヤ

モ ンゴル育ちのわたしは仏教を信じていました。ある日訪ねて来た友人は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でした。友人はイエス・キリストについて話し、教会に誘いましたが、わたしは耳を貸そうともしませんでした。友人は再び訪ねて来ましたが、わたしの気持ちは変わりませんでした。

友人が来てから数週間たったある日、わたしは夢の中で、教会に行くように告げる声を聞きました。「何ですって。どの教会のことを言っているのですか。わたしには分かりません。」夢の中でわたしは尋ねました。するとその声は教会への道順を告げ、「明日の朝、この教会へ行きなさい。教会では、二人の宣教師が

あなたを待っています」と言いました。

翌朝目覚めたときには、頭が混乱していました。「夢の中の声は一体だれだったのかしら。だれがわたしに話しかけたのかしら」と不思議な思いでしたが、とにかく教会に行ってみることにしました。

夢で教えられたとおりに行くと教会がありました。二人の宣教師がドアの所でわたしを迎え、握手をして集会に案内してくれました。教会の人は優しく、皆ほほえんでくれたので、わたしはとても幸せな気持ちになりました。

聖餐会せいさんの後で、宣教師から話を聞くよ

うに誘われたので、受けることにしました。

ジョンソン長老とサンプソン長老から初歩的なことを学びましたが、わたしにはよく理解できませんでした。すると長老たちはもう一度最初から説明し直してくれました。二人の宣教師は力強い証あかしをしました。わたしはたくさんの質問をしました。長老たちはどの質問にも答えてくれました。また、一緒に聖文を読みました。宣教師は帰り際に、その日学んだことについて祈ってみるように言いました。

わたしは幸福を感じ、宣教師から学ん

だことが真実かどうかを神に尋ねることにしました。ひざまずいてこのように祈りました。「神は生きておられ、わたしを愛してくださっているのでしょうか。イエス・キリストは生きておられますか。またこの教会は真実の教会でしょうか。もしそうなら、御霊みたまを感じさせてください。」祈り終わると、ゆったりと心地よく、まるで空を飛んでいるような気分でした。そして祈りの答えが心に与えられるのを感じました。「神は生きていて、あなたを愛しておられます。イエス・キリストは生ける御方です。迷うことはありません。これが唯一の真実の教会です。」聖霊が真実を証してくださっているのだということが分かりました。祈りの答えが神から与えられたのです。

2日後、宣教師が再び訪ねて来たので、わたしは自分の気持ちを伝え、バプテスマを受けたいと言いました。そして喜びのあまり、辺りを跳びはねました。その後3週間で宣教師から学び終え、ついにバプテスマを受けました。

神が生きておられ、わたしたちを愛してくださっているのを知っています。イエス・キリストは贖い主であり救い主です。また、ジョセフ・スミスが父なる神とその御子イエス・キリストにまみえたことを知っています。わたしはモルモン書を愛しています。そしてこの書物が神の言葉であることを知っています。わたしは現在アメリカ合衆国ノースカロライナ州ローリーで専任宣教師として働いています。伝道が大好きです。これは主の業です。わたしはイエス・キリストの真実の教会に導かれたことに心から感謝しています。■

ヤダムスレン・ムンクツヤは伝道を終え、現在モンゴル・ウランバートル北地方部、オールドダルハン支部の会員です。

夢の中で、教会に行くように告げる声を聞きました。

「どの教会のことですか」と尋ねると、その声はこの教会への道順を説明しました。

「二人の宣教師が教会であなたを待っています。」



わたしたちは**天父の娘**であり
天父はわたしたちを
愛しておられます

中央若い女性会長
スーザン・W・タナー



教室を見渡し、12歳の少女たちの、内気だけれども真剣な表情を見ながら、「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛しておられます」という若い女性のテーマの最初の一文を思い出しました。

わたしは「この若い女性たちは、天の御父が自分を愛してくださっていることをどれほど理解しているかしら」と思い、尋ねてみました。

ほとんどが下を向いたり、落ち着きなく足を動かしたりしていました。答えを考えるには時間が必要だし、あまり人には知られたくないかもしれないと思ったわたしは、「レッスンの間中、考えてみてください」と言いました。

人生の中で主の愛を見いだす

レッスンの最後に、一人一人に紙を

渡し、天の御父が自分を愛しておられることをどのようにして知ったかを、無記名で書くように頼みました。苦労している様子で、「難しい」とか「ほんとうに知っているのかどうかわからない」という声が聞こえてきました。わたしは特に、ジョセリンに胸を打たれました。レッスンの間中涙を流していたのです。一人になって彼女たちの答えを読みましたが、しわくちゃになった紙のうち、どれがジョセリンのものかすぐに分かりました。そこには「お母さんを救ってくださったから」とだけ書いてありました。

ジョセリンの母親は大切な友人の一人で、わたしも彼女のために心を込めて祈っていました。心臓の外科手術が成功し、もうすぐ退院できるというとき、脾臓の動脈が破裂し、すぐに危篤状態に陥りました。数人の医師が大急ぎで救命措置を行い、緊急手術を行えるまでに回復させました。彼女の回復はまさに奇跡としか言いようがありません。それはジョセリンやわた



わたしは
「この若い
女性たちは
天の御父が
自分を愛して
くださっていることを
どれほど理解している
かしら」と思い、
尋ねてみました。

写真/ロバート・ケイシー。写真はイメージです。



も し天の御父が
ジョセリンの
母親を救って
くださらなかったら、
どうなっていた
でしょうか。
それでもジョセリンは、
天の御父が自分を
愛してくださっていると
分かるでしょうか。

しを含む多くの人々の祈りへの答えであり、神の愛を力強く証する出来事でした。

でもそれと同時に、わたしはジョセリンの答えを読んで身震いしそうになりました。もし天の御父がジョセリンの母親を救ってくださらなかったら、どうなっていたでしょうか。それでもジョセリンは、天の御父が自分を愛してくださっていると分かるでしょうか。この世において避けて通ることのできない悲しみや悲劇に遭っても、主の愛を感じることができるでしょうか。

そのとき、わたしはめいのアシュレーを思い出しました。アシュレーもまた天の御父から愛されていることを知っています。しかし、アシュレーはジョセリンとまったく反対の経験をしていたのです。

約1年前、アシュレーは両親とともに、北カリフォルニアの自宅近くにある、海岸沿いの岩場を歩いていました。父親は水彩

画を描くために美しい風景を写真に撮っていました。そのとき突然、何の前触れもなく、荒波が海辺を襲い、父親は海にさらわれ、母親は岩の上を引きずられました。アシュレーは海から離れていたため、波にさらわれずに済みました。目の前で起こった出来事に驚愕しながらも、アシュレーは急いで助けを呼びに行きました。

間もなく、携帯電話を持った男の人が救急に連絡し、救命活動が開始されました。母親は、ヘリコプターでしか救助できない危険な場所にさらわれていました。ごつごつした岩と激しい波のために背骨と腕の骨が折れ、大小の傷が幾つもありました。アシュレーの母親は海辺で救命隊を待っている間、夫がそばにいるのを感じました。そして夫が亡くなったということもはっきりと分かりました。結局、父親の遺体は発見されませんでした。

天の御父はアシュレーの父親を救われませ





シ ヤデラク、
メシャク、
アベデネゴは
信仰を持っていて、
燃える炉の中で
命を助けられました。
預言者アビナダイも
主を信頼しましたが、
命は助けられませ
でした。
しかし4人とも、
主に愛されていること
を知っていました。

んでした。でも、アシュレーは、御父から愛されていることを知っています。「そのとき、わたしは聖霊からの慰めをずっと感じていました。もう一度お父さんに会えると分かりました。そして、助けに来てくれた人たちの親切を通して、主の愛を感じました」とアシュレーは言います。

毎週、世界中の若い女性とその指導者は起立して、こう唱えます。「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛しておられます。」わたしたちはほんとうにこのことを知っているでしょうか。そのことを深く知っていて、そこから強さと支えを得ているでしょうか。どうしたら、主の愛をさらに知り、感じるのでしょうか。ジョセリンとアシュレーの経験は、人生にあって喜びのときも、悲しみのときも、神の愛を知ることができるようになると教えています。

聖文の中に主の愛を見いだす

この二つの対照的な経験について思い巡らしていると、聖文に書かれた、同じような例を思い出しました。燃える炉から救い出されたシャデラク、メシャク、アベデネゴと、火で焼かれて殉教したアビナダイの話です。

シャデラク、メシャク、アベデネゴは主の忠実な僕しもべでした。主が自分たちを愛しておら

れることを知っていました。もし主の御心みこころならば、主は自分たちを燃える炉の中から救い出してくださいという信仰を持っていました。こう言っています。「もしそんなことになれば、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。」(ダニエル3:17) 主は自分たちをお救いになれると信じていただけでなく、もっと大切なのは、結果として守られるとしても守られないとしても、主の御心が行われると信じていたことでした。ネブカデネザル王は彼らが奇跡的に助かったことを見て非常に驚き、神が「自分に寄り頼むしもべら」に対して抱いておられる力強い愛に気づきました(ダニエル3:28)。

モルモン書に登場する預言者アビナダイもまた、火で焼かれそうになりながらも主を信じた。ノア王は言いました。「わたしとわたしの民について災いを述べた言葉をすべて取り消さないかぎり、おまえはこの理由で殺されることになる。」(モーサヤ17:8)

アビナダイは雄々しく拒みました。火で焼かれる時が来ても、奇跡的に助けられることはありませんでした。「彼は神の命令を拒もうとしなかったために殺され、自分の言葉が真実であることを死によって確かなものとし

時に主は、
わたしたちの
心の願いを
かなえて祝福して
くださいます。また、
望みが成就しない、
あるいは絶たれたとき
でも、重荷を背負う力
や慰めを与えて
くださるのです。

たのである。」(モーサヤ17:20) アビダナイは自分に対する主の愛と主の御心みこころを信じていました。

シャデラク、メシャク、アベデネゴは火で焼かれることなく命を助けられました。アビダナイは助けられませんでした。しかし、4人とも、主に愛されていましたし、そのことを知っていました。

この二つの物語の結末から、神の愛はこの世の出来事を超越したものであることが分かります。主の愛は、身に起こる良いことや悪いことよりも大なるものです。時に主は、わたしたちの心の願いをかなえて祝福してくださいます。また、望みが成就しない、あるいは絶たれたときでも、重荷を背負う力や慰めを与えてくださるのです。

すべてのことに主の愛を見いだす

わたしは人生の中で、
自分に対する主の愛を知
ようになりました。
祝福を求めて祈り、
与えられたことも

ありました。憐れみあわれみと奇跡に、誕生とバプテスマに、健康と癒しいやに、朝と山に、友情と家族の愛に、主の定められた時と神殿に、わたしは主の愛を感じます。

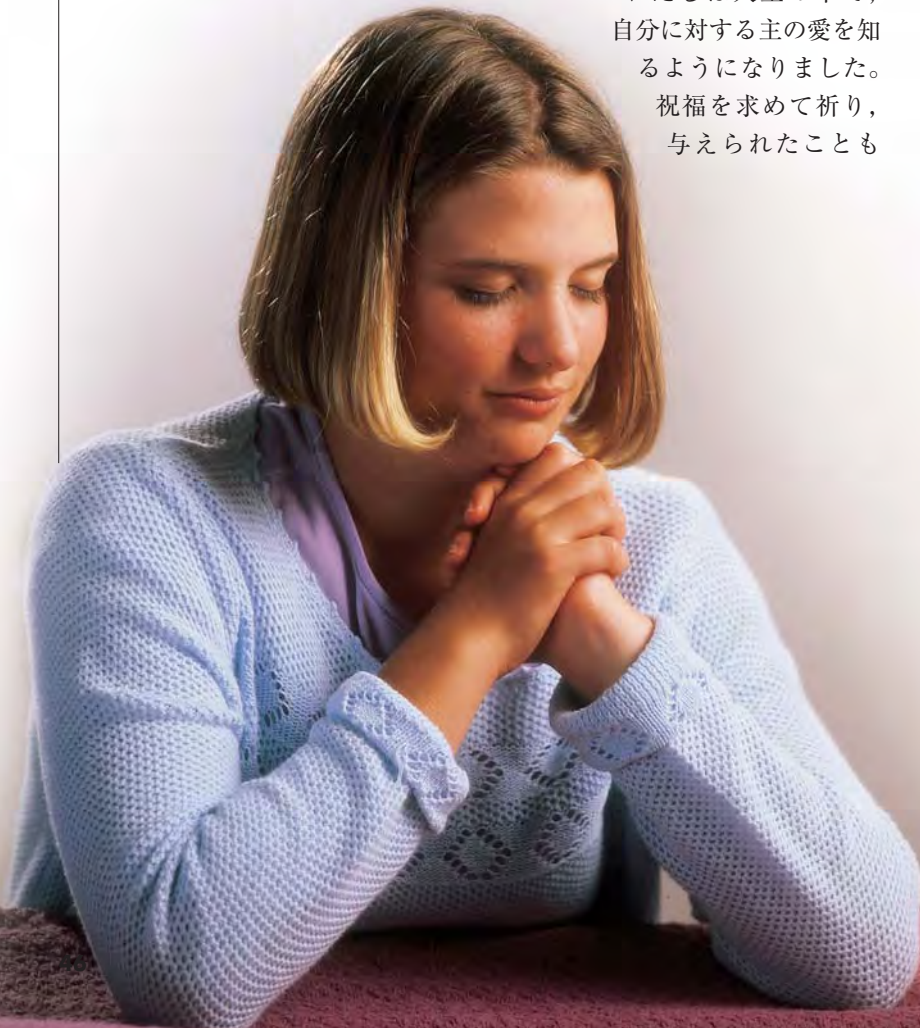
それとは対照的に、試練のときにもまた、主に支えられてきました。この杯さかずきを取りのけてくださいと願い求めても、重荷が取り去られないときもあります(ルカ22:42参照)。でも、実はそのような困難な経験の中でこそ、さらに主に頼る気持ちが増し、主のあふれる愛を豊かに感じる事ができるのです。そのようなときこそ、主を近くに感じます。主が背負ってくださり、慰めてくださり、歩み続けられるように勇気を与えてくださっていると分かるからです。パウロがローマ人に教えたように、どんな困難もわたしを神の愛から離れさせることはないと思っています。

「だが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難かんなんか、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。

わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。」(ローマ8:35, 38-39)

ジョセリンとアシュレーの場合もそうです。ジョセリンの親は救われ、アシュレーの親は救われませんでした。二人を神の愛から引き離すことはできませんでした。喜びのときも悲しみのときも、どのような経験をして、主の愛を感じているからです。わたしは、世界中のすべての若い女性の皆さんが、どのような状況にあっても、ジョセリンやアシュレーのように確信をもってこう証してくださるようお願いしています。「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛しておられます。」■





オランダ便り

1841年にエルサレムに向かう途中、十二使徒定員会のオーソン・ハイド長老（上）は、オランダのロッテルダムで1週間余り過ごし、福音を教えました。しかし末日聖徒の宣教師がオランダに召されたのは、それから20年もの年月がたってからでした。オランダで初めて改宗した人たちは、1861年10月1日にブルック・アッカーワウデという村の近くでバプテスマを受けました。

今や、オランダには3つのステークがあり、およそ7,800人の教会員がいます。オランダ・ハーグ神殿は、2002年9月8日に奉献されました。



モルモン書を読もう

スイスのクロイツリンゲンのインスティテュートの生徒たち（上）は、モルモン書を学び始めると、生活の中に確かな平安を感じるようになりました。そこで彼らは、その御霊を支部の会員たちと分かち合おうと決心しました。生徒たちは、^{みたま}聖餐会でモルモン書について証を述べました。またイザヤ書第12章2節をテーマとして用いて（右）、1か月の間1日1章ずつモルモン書を読むように支部の会員たちを励ましました。

1か月にわたるチャレンジの期間が過ぎても、支部の会員たちはモルモン書を読み続けました。モルモン書を読むにつれて、インスティテュートの生徒たちが感じた同じ平安を会員たちも感じるようになったのです。アーレッタ・リーザンは次



のように話しています。「今では、支部の中にとっても強い御霊があります。皆、もっと主が求められることを行いたいと望むようになり、また互いへの愛を感じられるようになっていきます。その愛は、イエス・キリストがわたしたちそれぞれに対して抱いておられるのと同じ愛なのです。」

それは10月の出来事でした

教会歴史の中で10月に起こった重要な出来事をいくつか紹介します。

1833年10月5日—預言者ジョセフ・スミスは、オハイオ州カートランドからカナダに向かって旅立ちました。カナダの地でジョセフは、16人に福音を伝え、バプテスマを施しました。



1867年10月6日—テンプルスクウェアに新たに完成したタバナクルで、初めての総大会が開かれました。タバナクルの建物は、1875年の10月9日に奉献されました。



2000年10月8日—ゴードン・B・シンクレイ大管長が、新たに建設された2万1,000人収容可能なカンファレンスセンターを奉献しました。この建物はタバナクルの北隣の街区に建っています。

『リアホナ』 2003年10月号 の活用法

レッスンのためのアイデア

●「時」10ページ——ダリン・H・オークス長老は、わたしたちはただ正しいことを行うだけでなく、正しいときに行く必要があると教えています。主の時にかなって（あるいはかなわないで）何かを行うとどのようなことが起こるか、聖典の中の出来事や家族の経験から話してもらいます。

●「わたしたちは天父の娘であり 天父はわたしたちを愛しておられます。」42ページ——スーザン・W・タナー姉妹が投げかけている質問について話し合います。「天の御父が、わたしたちの望むような形で祈りにこたえてくださらないときには、どうしたらよいのでしょうか。天の御父がわたしたちを愛しておられることをどのように知ることができるのでしょうか。」タナー姉妹のめいであるアシュレーやアビナダイの話、そのほかの類似した話と関連づけて考えましょう。

●「ちびっ子機関車君」F2ページ——子供たちに、ジェームズ・E・ファウスト副管長が語った「ちびっ子機関車君」のお話を知っているか尋ねます。一人の子供に内容を簡単に話してもらいます。3つの列車の態度について話し合い、どうしたら小さな青い機関車のようにになれるか、子供たちに具体的な例を挙げてもらいます。

写真/クリー・ラーセン。
写真はイメージです。

忘れられないレッスン

レッスンや霊的な話し合いの中で、特に意義深いあるいは楽しいと感じたもの、または自分や周りの人の人生にとって祝福となったものがありますか。忘れられないレッスンに関する記事を、Teaching, *Liahona*, Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA, または電子メールで cur-liahona-imag@ldschurch.org までお送りください。あなたの氏名、住所、電話番号、ワードおよびステーク名（または支部および地方部名）を忘れずに明記してください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

| | |
|----------|-------------------|
| 愛 | 42 |
| 証 | F14 |
| イエス・キリスト | 26, F6 |
| 癒し | F8 |
| 教え | 48 |
| 音楽 | 38, F12 |
| 改宗・改心 | 2, 18, 30, 38, F8 |
| 家族関係 | 18, 32, 38 |
| 家庭の夕べ | 48 |
| 逆境 | 6, 42 |
| 教会歴史 | 47 |
| キリストの光 | F6 |
| 結婚 | 10, 32 |
| 高慢 | 25 |
| 慈愛 | 25 |
| 指導性 | 47, 48 |
| 従順 | 6, F11 |
| 神権 | 22 |
| 信仰 | 10, 26 |
| 神殿と神殿活動 | F4 |
| 新約聖書 | 26, F8, F11 |
| 聖霊 | 38, F11 |
| 世界に広がる教会 | F12 |
| 備え | 22, 25 |
| たとえ | 26 |
| 定着 | 2 |
| 伝道活動 | 2, 6, 18, 38 |
| 時 | 10 |
| 忍耐 | 10 |
| 粘り強さ | F2 |
| 奉仕 | F2 |
| 恵み | 26 |
| 模範 | F6 |
| モルモン書 | 18, 30, 47 |
| 預言者 | F14 |



「理解するように教える」ウォルター・レーン画

親は子供を教えるように勸告されている（教義と聖約68：25参照）。

学校の宿題をする息子とそれを助ける父親のそばには、聖文による麗しい肉体的な確いを示すものも描かれている。



「結局, すばらしい女性とともに人生を過ごし, 子供たちが幸せに成長して大人になり, 人の役に立つような人物になることを見届けられるならば, 人生は成功したと言えらると思います。」66年に及ぶ夫婦・家族生活を振り返りながら, ゴードン・B・ヒンクレー大管長はそう語った。「人生は, 車を何台持っているかとか, 家がどれほど大きいとか, そのようなことによって計られるものではないのです。質的にどのような生活を送るかが人生の成否を分けるのです。」
「ヒンクレー夫妻が歩んできた道」32ページ参照